

研究報告書第58号

F 1 - 0 5

豊かな体験を生かした生活科の展開

～地域の特性を生かした授業をめざして～

1992. 3

山形県教育センター

平成4年3月刊

豊かな体験を生かした生活科の展開

～地域の特性を生かした授業をめざして～

山形県教育センター

目 次

I 研究の目的と方法

II 研究の進め方

III 研究内容

1 生活科の進め方

2 地域の特性を生かした学校の実践

IV 研究のまとめと今後の課題

研究の概要

I ねらい

新教科「生活科」の特質を明らかにするとともに、地域の特性に応じ、豊かな活動や体験を取り入れた授業の展開例を作成し、「生活科」の指導に資する。

II 趣旨

今次の学習指導要領の改訂において、これまでの小学校低学年における社会科と理科が廃止され、「生活科」が新設された。それに伴って平成2年度から移行措置に入り、平成4年度には全面的に実施される。

生活科にはこれまでの教科にはないねらいや特質があり、新しい視点に立った教材の開発や指導法の研究が求められている。

このような背景をうけて、本研究では、地域に根ざした豊かな活動や体験を通して、児童が楽しく生き生きと学習し、自らの生活を工夫していく態度と能力を身に付けるとともに、豊かな心を育てる生活科をめざした指導計画と学習展開例を作成する。

III 進め方

- 1 研究の主題や副題に対する基本的な考えや具体的な視点を明らかにする。
- 2 研究協力者（校）を依頼し、実践を通して、研究仮説を検証する。
- 3 授業を分析し、今後の実践課題を設定する。
- 4 指導資料及び指導計画試案の提示、研究実践のまとめを報告する。

IV 要約と課題

1 要約

- (1) 生活科の特質である「活動・体験の重視」、「地域の特性の重視」を視点として研究を進め、授業実践を通して研究の視点やめざす子ども像等の仮説を明らかにした。
- (2) 地域の特性を生かすとともに、豊かな体験を取り入れた指導計画と学習展開例を作成した。
- (3) 授業実践の結果、児童は楽しく意欲的に学習に取り組み、自発的・自主的な生活態度を身に付けた。

2 課題

- (1) 生活科の趣旨や特質を研究の重点として、実践を通して明らかにしていく。
- (2) 今後、予想される生活科推進上の実践課題の解明に当たる。

は し が き

昭和62年12月の教育課程審議会の答申で「小学校低学年においては生活や学習の基礎的な能力や態度を重視し、低学年児童の心身の発達に即した学習が展開できるようにする観点から、体験的な学習を通して総合的な指導を一層推進するのが適切である。」と指摘され、新教科である「生活科」が誕生した。

この背景には、画一的な一斉指導に対する反省、低学年の社会科や理科の学習指導の実態に対する反省、自然離れをした今日の児童の実態、日常生活に必要な生活習慣や生活技能の欠如等、これまでの学校教育に対する深い反省と見直しがある。

また、活動や体験の重視、個性化・個別化への対応、学校と家庭・地域社会との連携といった学校教育全体にかかわる教育観の変革への期待がある。このような問題提起から生活科は新しい教育観と授業の在り方を求めているのである。

生活科は3年間の移行措置を経て、来年度から全面的に実施されるが、指導資料も漸次刊行され、文部省の研究推進校をはじめ、県や市町村の研究指定校や研究機関からもめざましい成果や実践例が次々に公開されている。しかし、全体的に生活科への関心は高いものの新設教科に対するとまどいは大きく、試行錯誤を繰り返しながら、来年度の指導計画を模索しているのが実情である。

このような背景から、今、教育現場で求めているのは、地域や学校の特色を生かした指導計画や多様な学習の展開例ではないかと考えるものである。

本研究では、「豊かな体験を生かした生活科の展開」を主題に「各学校や地域の特性を生かした生活科はどうあればよいか」を探るために、県内の四つの特徴的な地域の八つの学校に協力を依頼し、指導計画の作成及び授業実践を試みた。

本報告は2年継続研究の第1年次及び第2年次の研究成果をまとめたものであり、生活科の具体的な進め方にかかわる指導資料と実践事例を主な内容としている。第1年次の中間報告とともに、今後の生活科を進めていくうえで、その手がかりとして活用願えば幸いである。

終わりに、本研究の趣旨を理解され、御協力をいただいた各研究協力者（校）並びに関係の先生方に心から謝意を表すものである。

平成4年3月

山形県教育センター所長事務取扱

佐藤進

研究協力者(校)

〈平成2年度〉

山形市立第五小学校	教諭	庄田 敏彦
	教諭	佐藤 明子
戸沢村立角川小学校	教諭	庄司 美枝子
	教諭	大江 郁
白鷹町立鮎貝小学校	教諭	小関 真波
	教諭	小関 八重子
温海町立鼠ヶ関小学校	教諭	五十嵐 正子

〈平成3年度〉

朝日町立上郷小学校	教諭	逸見 智子
尾花沢市立福原中部小学校	教諭	竹 埜 理恵子
	教諭	元 木 久美子
米沢市立西部小学校	教諭	櫻井 順一
遊佐町立吹浦小学校	教諭	中 條 秀
	教諭	池 田 裕 美

研究担当者

〈平成2年度〉

指導主事	早 坂 潔
指導主事	渡 部 真 二
指導主事	佐 藤 満
研究員	須 藤 吉 雄
研究員	近 藤 直 志

〈平成3年度〉

指導主事	早 坂 潔
指導主事	藤 田 明 子
指導主事	鈴 木 秀 明
研究員	本 田 淳

目 次

I 研究の目的と方法

1 研究主題～副題～	1
2 研究の目的	1
(1) 研究のねらい	1
(2) 研究の趣旨	1
(3) 研究の視点	1
(4) めざす子ども像	3
(5) 研究の仮説	3
3 研究の方法	3

II 研究の進め方

1 研究の構想	3
2 研究計画	4

III 研究内容

1 生活科の進め方	5
(1) 年間指導計画作成までの手順(複式学級も含む)	5
(2) 単元の展開計画作成の手順	11
(3) 学習指導案作成の手順と配慮	11
(4) 授業研究の視点	14
(5) 環境マトリックス作成の手順	15
(6) 活動・体験マトリックス作成の手順	15
(7) 生活科マップと生活科暦作成の手順	19
(8) 評価の進め方	19
* 生活科内容選択の視点と観点別評価項目例	24
2 地域の特性を生かした学校の実践	26

IV 研究のまとめと課題

* 参考文献	62
--------	----

I 研究の目的と方法

- 1 研究主題 「豊かな体験を生かした生活科の展開」
～地域の特性を生かした授業をめざして～

2 研究の目的

(1) 研究のねらい

新教科「生活科」の特質を明らかにするとともに、地域の特性に応じ、豊かな活動や体験を取り入れた授業の展開例を作成し、「生活科」の指導に資する。

(2) 研究の趣旨

① 移行期における生活科の現状と課題

今次の学習指導要領の改訂において、これまでの小学校低学年における社会科と理科が廃止され、生活科が新設された。それに伴って平成2年度から移行措置に入り、平成4年度には全面的に実施される。

生活科にはこれまでの教科にはないねらいや特質があり、新しい視点に立った教材の開発や指導法の研究が求められている。しかし、教育現場においては、生活科への関心は高く期待は大きいものの、生活科の理念や内容等の理解、指導計画の作成や指導体制の確立、生活科の授業の構想、環境の整備等、新設教科を始めるに当たっての課題が山積している状況にある。

② 平成2年度の成果を踏まえて

平成2年度は、四つの研究協力校の実践から「豊かな体験を取り入れた」指導計画や学習展開例を作成し、「地域の特性を生かした」授業を進めた結果、児童は楽しく、生き生きと活動し積極的な生活態度が見られるようになった。また、教師や地域の人々も地域の自然や社会に目を向けるようになり、生活科への理解を深めるとともに、学校と家庭・地域社会とのつながりが強まった。

このような成果をうけて、平成3年度の研究では、山形の地域に根ざした豊かな活動や体験を通して、児童が自ら生活できる態度や能力を身に付けるとともに、豊かな心を育てる生活科をめざした多様な指導計画と学習展開例を作成し、実践を通して生活科の特質を明らかにするものである。

(3) 研究の視点（研究主題と副題に対する基本的な考え方）

研究主題は、生活科の目標であり内容である「児童の活動や体験」にかかわるものであり、副題は児童の学習圏である「環境」にかかわるものである。したがって、次に示すような視点で、地域の環境素材と予想される活動や体験を収集、分析をして、マトリックスにまとめておく意義は大きい。マトリックスは学校や地域の特性、地域らしさそのものではないかと考える。

① 「活動や体験」と「生活科」

ア 生活科における「活動や体験」のもつ意味

低学年児童の心身の発達状況から考えて、この段階にある児童は「具体的な活動を通して思考する」つまり「遊びや仕事などの実際の、行動的な問題解決を通して認識する」という発達特性がある。言わば、低学年児童にとって遊びや活動・体験は生活のすべてであり、社会認識や自然認識そのものである。また、遊びを中心とした具体的な活動を通して総合的な学習を進めている幼稚園教育との接続・発展を図るという意味がある。

イ 「豊かな体験を生かす」とは

本研究において豊かな体験の具体的な視点は、以下のとおりであるが、これらを積極的に体験させることによって、児童の心にしみ、児童の夢をふくらませて次の活動や体験を生み出し、児童自身の生活が豊かになっていくことを願っている。

- ・ 児童の興味や欲求に基づくもの
- ・ 活動に多様性があり、広がりや深まりが期待できるもの
- ・ 教師と児童、児童間の対話や協力を伴うもの
- ・ 新鮮さがあり満足感や達成感を伴うもの
- ・ 生活に生かすことができる可能性が大きいもの
- ・ 低学年児童としての発達課題に見合うもの

② 「環境」と「生活科」

ア 生活科における「環境」のもつ意味

児童をとりまく環境は地理的自然や気候・風土といった自然的環境、地域の住民による人的環境、そして、そこに住む人々によってつくり出される文化・伝統などの社会的環境の三つに分けることができる。児童はこれら地域の環境に積極的に働きかける活動を通して自然を認識し、社会を認識し、そして自己を認識していくのである。

したがって、生活科においては地域や学校の実態等を十分考慮するとともに学習の素材については、地域の社会や自然を生かし、自分とそれらとのかかわりが具体的に把握できるものを取り上げることが大切である。

イ 「地域の特性を生かす」とは

地域の特性とは、学校や家庭も含めた地域の環境、その中で育まれてきた人々の生活の在り方、ものの考え方などの地域の特色や特徴であり、その地域のもつ地域らしさである。

本研究における「地域の特性を生かす」とは、これらの地域の特性を教材化することであり、主として次のようなことをねらうものである。

- ・ 地域の自然、文化などに直接触れさせることにより、そのよさに気付かせる。
- ・ 地域に住む人々との触れ合いを通して、人々の生き方や心の温かさを感じ取らせる。
- ・ 自然のすばらしさ、歴史、文化の重みなど地域のよさを知らせることにより、地域に対する愛着や郷土を愛する心を育てる。
- ・ 地域に住む人々の生き方、たくましさなどを感じさせることによって地域社会への所属感や仲間意識、連帯感等の素地を養う。

(4) めざす子ども像

- ① 親切で思いやりがあり、みんなと仲よくできる子ども
- ② 人間的なやさしさがあがり、心豊かな子ども
- ③ 積極的に自分を取り巻く社会や自然に働きかけ、自主的、創造的に生活を工夫する子ども
- ④ あいさつや生活のきまりなど基本的生活習慣や学習習慣をしっかりと身に付け、自ら行動できる子ども
- ⑤ 自分の意見や考えを適切に表現できる子ども

(5) 研究の仮説

- ① 豊かな活動や体験をさせることによって、児童は楽しく生き生きと学習し、友達と仲よくかわりながら自分自身についても気づきを深めていくのではないかと。
- ② 地域の特性を十分に生かした指導計画を作成し、単元を構成することにより、どの児童も興味・関心をもって学習に取り組み、自分を取り巻く社会や自然に積極的に働きかけていくとする意欲や態度、能力が育つのではないかと。

3 研究の方法

山形県を下記のような特徴をもった四つの地域に類型化し、各々の地域に研究協力者（校）を依頼して、連携を図りながら実践研究を進める。

- ・ 山間の特徴をもった地域……………戸沢村、朝日町
- ・ 海辺の特徴をもった地域……………温海町、遊佐町
- ・ 里の特徴をもった地域……………白鷹町、尾花沢市
- ・ 町の特徴をもった地域……………山形市、米沢市

II 研究の進め方

1 研究の構想 (研究を進めるに当たっての基本的な考え方)

生活科の進め方にかかわる指導資料を提示するとともに山、海、里、町のイメージをもつ地域の学校の指導計画を作成し、授業実践例等を集約する。

具体的には研究の視点に即し、次のことに重点をおいて進める。

- (1) 地域の環境（自然や社会、人々、歴史、文化、伝統、産業、公共施設等）を分析し、その特性を類型化して環境マトリックスにまとめる。
- (2) 児童の生活を豊かにするような活動や体験を想定し、その特性を類型化して活動・体験マトリックスにまとめる。

- (3) 山, 海, 里, 町の地域の特性を生かすとともに, 豊かな活動や体験を取り入れた指導計画を作成する。
- (4) 県内の四つの特徴的なイメージをもつ地域, 学校や児童の実態に即した授業を構築する。
- (5) 生活科を具体的に進めるための指導資料(生活科の進め方, 指導計画及び関連資料, 授業研究の視点, 評価資料等)を提示する。
- (6) 評価の試案に基づいて実践する。

2 研究計画

本研究は2か年の継続研究であり, その年次計画は次のとおりである。

(1) 平成2年度 基礎研究及び指導の試み

- ① 研究の基本構想を立案する。
- ② 研究協力者(校)を依頼する。
- ③ 研究授業を実施する。
- ④ 分析とまとめをする。
- ⑤ 指導資料(生活科の進め方, 指導計画と関連資料及び授業研究の視点等について)を提示する。

(2) 平成3年度 指導計画と学習指導案の作成及び授業実践

- ① 研究の構想の見直しをする。
- ② 研究協力者(校)を依頼し, 協力者会議で研究の具体的な進め方や実践課題を明確にする。
- ③ 環境調査と学習素材の分析を行う。
 - ・ 特徴的な地域の環境を調査, 分析し, マトリックスにまとめる。
 - ・ 豊かな活動や体験を収集, 分析し, マトリックスにまとめる。
- ④ 学習指導案を作成し授業実践により仮説の検証を図る。
- ⑤ 授業の分析とまとめをする。
- ⑥ 指導資料(素材の収集と分析, 評価, 複式学級における生活科の指導計画等について)を提示する。
- ⑦ 研究報告書をまとめる。
- ⑧ 研究の成果を報告する。

III 研究内容

1 生活科の進め方

生活科を進めるに当たっては, 校内における指導体制や環境整備, 年間指導計画や単元指導計画の作成及び関連資料等の整備を一体的に並行して進める。

生活科の指導計画の作成に当たっては次の4点に配慮する。

- 地域の社会や自然を生かすとともに, それらを一体的, 総合的に扱うように学習活動を工夫すること。
- 自分と地域の社会や自然とのかかわりが具体的に把握できるような学習活動を行うこと。
- 生活上必要な習慣や技能の指導については社会, 自然及び自分自身にかかわる学習活動の展開に即して行うようにすること。
- 言語, 造形などに関する指導との関連を図り, 指導の効果を高めること。

(1) 年間指導計画作成までの手順

- ① 生活科の趣旨・ねらい・内容の検討をする。

生活科では, 身近な社会や自然と自分とのかかわりの中で自分自身や自分の生活を考えることを通して, 将来, 自分自身の考え方や生活を自らつくり上げる素地を養うことが主なねらいであり, 次のような特質がある。

 - ア 活動を通して体全体で学習する教科である。
 - イ 気付きを大切にし, 個性を生かす教科である。
 - ウ みんなと仲よく遊び, 生活の知恵を身に付ける教科である。
- ② めざす子ども像を設定する。

学校の教育目標に照らし, 自校の生活科で育てようとする具体的な子ども像を明確にする。その際, 生活科本来のねらいも考慮する。学習指導要領では生活科でねらう自立の基礎として, 次のような内容を挙げている。

 - ア 集団生活ができる。
 - イ 自分の考えが述べられる。
 - ウ 自分のことは自分でできる。
 - エ 身近な社会や自然にかかわることができる。
- ③ 仮説に迫る具体的な手立てを明確にする。

めざす子ども像に対してどんな視点で, どのような方法で, どのように迫るのかという仮説を立て, それを検証するための指導・援助の工夫や配慮, その手立て等を明確にする。
- ④ 児童の実態を把握する。

生活科で育てる子ども像と比べて, 生活体験の量や質の実態や, 思考, 行動などの傾向をとらえる。生活科の内容選択の10の視点や観点別評価項目例(pp. 24-25)を基に, 教師の観察の視点やアンケートの項目を作成し調査する。

⑤ 学校や地域の環境を把握する。

生活科の学習に生かせる学習素材が地域のどこにあるか、いつごろ、どのように活用できるかを具体的にとらえる。生活科の内容選択の視点で探し出し環境マトリックスや活動・体験マトリックスに収集しておき、生活科マップ・生活科暦に整理する。

環境マトリックスの作成の手順と様式 (pp. 15-17)、活動・体験マトリックスの作成の手順と様式 (pp. 15-18)、生活科マップ、生活科暦の作成の手順 (p. 19) を参照する。

⑥ 以上のことを踏まえ、他教科や他領域、家庭・地域社会とのかかわりなどを盛り込んだ生活科の全体構想図 (実践例 p. 28) を作成するとよい。

⑦ 学習活動のまとまりをできるだけ多く探る。

4月から始まる学校生活と児童の関心の広まりに配慮し、予想される活動内容を活動・体験マトリックスから、活動の場を環境マトリックスから選択し、多様な学習活動のまとまりを生活科暦に沿って想定する。

⑧ 学習活動のまとまりを焦点化する。

生活科の内容と④の児童の実態と学習の場との関連を図り、重点的に体験させたい内容を把握する。

⑨ 年間の大まかな単元配列を考える。

活動のまとまりを学習内容のバランス、単元間の連続や関連、年間の授業時数等を考慮して大まかに配列する。その際、学校における学期ごとあるいは季節ごとの基本的な単元の流れを押さえておく。

⑩ おおよその時間配当と単元名を考える。

各単元の授業時数 (第1学年102時間、第2学年105時間) を決め、単元名は単元の内容にふさわしく、しかも児童が親しみをもてるように「〇〇〇をしよう」とか「〇〇となかよし」などとする。

⑪ 単元の目標を設定し、展開計画を作成する。

単元の目標は学年の目標や内容との関連を図るとともに、児童の活動の様子がわかるように「～できる」などの行動目標の形で表す。

⑫ 作成した年間指導計画の学習内容を確認する。

学習内容が、教師の願いや児童の実態を加味して、バランスよく構成されているかを生活科の内容選択の10の視点との関連表を作成して確認する。

⑬ 年間指導計画は以上のような手順で作成し、実施に当たっては、弾力的に運用したり、合科的に無理なく指導する。例えば次のようである。

- ・ 雨が降って公園に行けないから予定を延ばそう。
- ・ 夢中になっているからもう少し時間を延ばそう。
- ・ 予定していた地域の人が都合がつかなくなったので代わりを頼もうか、日を延ばそうか、それとも自分がやってみようか。
- ・ 活動の振り返りは国語の作文や図工の絵やものづくりなどと合わせてやろう。

年間指導計画 (様式例) は省略

なお、複式学級における生活科の進め方は以下のようである。

複式学級における生活科の年間指導計画

(1) 1・2年複式の場合考えられる年間指導計画

教 材	指 導 者	年 間 指 導 計 画 形 態
同 教 材	1 人	異学年同教材 (A B 年度方式) 朝日町立上郷小学校実践
異 教 材	1 人	異学年異教材
	2 人	異学年異教材

(2) 2・3年複式の場合考えられる年間指導計画

教 材	指 導 者	年 間 指 導 計 画 形 態
異学年異教材	1 人	2年生活科と3年社会科・理科による類似単元
	1 人	2年生活科と3年他教科による完全複式による指導計画
	2 人	2年生活科と3年他教科による独立しての指導計画
異学年同教材	1 人	1・2年合同による生活科の指導計画

(3) 2年生活科と3年社会科・理科の類似単元構成による指導計画

① 実態調査から

平成3年度、県内で2・3年の複式学級を有する小学校は13校である。これらの学校において2年の生活科を試行した授業がどのように行われているのかを実態調査した結果、次のような現状であることが分かった。

ア 2・3年の学級担任1人で両学年を指導しなければならない学校が6校ある。

イ 限られた条件と環境の中で、豊かな地域の素材や環境を生かした生活科をどうすれば実施できるかという視点で創意に満ちた実践が繰り返されている。

② 提 言

実態調査から上の四つの指導計画が考えられる。本研究では、指導者1人による2年生活科と3年社会科・理科による類似単元構成による指導計画を提示する。

ア 作成に当たり、想定した地域……西村山教育事務所管内

イ 使用している教科書……社会科 (中教出版) 理科 (啓林館)

ウ 方法 ・2年が生活科を学習している時、3年は社会科と理科を学習する

・時間割を下図のように記入する。



・2年生活科105時間と3年社会科、理科で105時間を設定する。

・3年社会科・理科の残り105時間は、2年児童が放課後の2時間及び2年が国語学習している1時間を充てる。(※2年国語は週9時間、3年国語は週8時間位置付けられている。)

③ 2・3年複式学級における生活科年間指導計画モデルプラン

3年 社会科	月	2年 生活科	月	3年 理科
わたしたちの すんでいる ところⅠ 〈12〉 【わたしたちの学校のまわり】 ・見学の計画 ② 【見学に行こう】 ④ ・グループ・見学コース ・カード記入 【地図を作ろう】 ⑥ ・白地図 ・地図完成	4	まちの探検 〈12〉 【学区探検の計画を立てよう】 ② ・探検の計画 ・旗づくり 【探検に行こう】 ⑧ ・グループ ・探検コース ・カード記入 【探検マップを作ろう】 ② ・カードを白地図 ・地図完成	4	
	5	野菜を育てようⅠ 〈3〉 【学級園に野菜を作ろう】 ③ ・植え付けの準備 ・種まき ・苗植え ・その時の様子を絵	5	アブラナの花 〈3〉 【新しい花】 ① ・めしべが実 【にたつくりの花】 ② ・花のつくり ・実には種
わたしたちの すんでいる ところⅡ 〈7〉 【見学に行こう】 ① ・地図を見ながら ・カード記入 【地図を作ろう】 ⑤ ・最初の地図を手直し ・絵地図完成	6	雨の日を楽しく すごそう 〈7〉 【雨の日に探検しよう】 ③ ・雨の日の校庭や公園 【小動物を飼おう】 ② ・探検で見つけた小動物を飼う 【雨の日を楽しくすごそう】 ・雨の日パーティー ・室内で楽しく	6	
	7	生き物を飼おう 〈12〉 【生き物をさがそう】 ④ ・採集 ・学校で飼育、観察 【水族館へ行こう】 ⑤ ・行く方法を調べ ・行く 【水族館を作ろう】 ③ ・飼育、観察している生き物	7	わか葉の きせつ 〈14〉 【草木のつくり】 ⑤ ・木のようす ・花壇のようす 【へちまをうえよう】 ③ ・たねをまく 【花にくる虫】 ③ ・何をしているか 【へちまのくきの長さ】 ③ ・伸びの観察 ・土の温度
		野菜を育てようⅡ 〈2〉 【収穫を祝おう】 ② ・野菜の収穫 ・夏の季節感		

3年 社会科	月	2年 生活科	月	3年 理科
土地のようす にあわせた 人々のしごと 〈18〉 【市の人々がつくっているもの】 ④ ・土地にあった仕事見学 【土地の様子にあった人々の仕事】 ② 【農家の仕事の工夫】 ④ 【工場の仕事の工夫】 ④ ・見学の計画 ・公害について 【新聞作り】 ④	9	秋祭りをしよう 〈18〉 【祭りを調べよう】 ② ・見たり、参加したりした体験発表 【祭りの計画】 【祭りの準備をしよう】 ⑫ ・祭りに必要なものを習う ・みこし、はっぴ、招待状 【祭りをしよう】 ④ ・みんなで祭りをする ・祭りの様子を絵や文	9	
	10	野菜を育てようⅢ 〈4〉 【収穫を祝おう】 ④ ・野菜を収穫する ・野菜を食べる ・収穫までのことで心に残ったことをまとめる	10	おもちゃの季節 〈4〉 【木のようす】 ① ・葉のつきかたや色 【草むらの変化】 ① ・実と虫 【温度の変化】 ② ・夏との違い
県内のいろいろな土地のくらし 〈2〉 【わたしたちの県と市】 ② ・自分の家の住所 ・わたしたちの県と市さがし	11	おもちゃで遊ぼう 〈10〉 【おもちゃを作ろう】 ⑥ ・自然物や廃物利用 ・簡単な仕組みで動くおもちゃ 【おもちゃ大会をしよう】 ④ ・作ったおもちゃを持ち寄る ・遊び方を工夫する ・楽しく遊ぶ	11	空気であらう 〈10〉 【空気であらうを作ろう】 ④ ・ビニル袋 ・押し棒の長さの違い ・空気であらう遊び 【玉飛ばし大会をしよう】 ⑥ ・作ったものを持ち寄る ・飛ばしかたを工夫し楽しく遊ぶ
	12	年賀状を出そう 〈10〉 【手紙を集めよう】 ② ・手紙を持ち寄る ・手紙を出した相手、場所 ・内容について調べる 【子ども郵便局を開こう】 ⑥ ・ポスト、区分け箱 ・住所、郵便番号 【年賀状を出そう】 ② ・お世話になった人へ ・投函する	12	
年賀状を出そう 〈8〉 【子ども郵便局を開こう】 ① ・ポスト、区分け箱 ・住所、郵便番号 【年賀状を出そう】 ② ・投函する				

3年 社会科	月	2年 生活科	月	2年 理科
	1	冬のくらしを調べよう <12> 【年の暮れやお正月の行事を調べよう】③ ・年の暮れやお正月の行事 ・あいさつの仕方 ・調べ活動 【だるま市に行こう】④ ・見学 ・見たこと、思ったことを絵や文に 【冬のまちを探検しよう】⑤ ・冬のまちに出る ・人々の様子を見る ・まちの様子を観察する	1	冬の草木や虫 <12> 【草木や虫などの生き物】③ ・葉のおちた木、草 ・ムラサキシキブ ・ソメイヨシノ 【葉のおちた木】③ ・新しい芽 【冬をこす生き物】 ・石の下、土の中
	2	わたしの記録 <15> 【大きくなった自分を確かめよう】③ ・生まれたころの身長 ・生まれたころの体重 ・おもちゃなどを調べる 【思い出を探そう】③ ・家の人に聞く ・いろいろな思い出を探す 【アルバムを作ろう】⑥ ・写真や絵 ・自分の作品などを使う ・アルバムを作る 【生活カルタを作ろう】③ ・思い出や希望をまとめたカルタを作る	2	
市（町・村）のうつりかわり <15> 【わかしのくらしを調べる】③ ・50年ほど前のようす ・50年ほど前の食事 ・道具とくらしのちがひ 【市（町村）に残る古いものを調べる】 ・家の人に聞く ・史料館見学 ・史跡見学 【市（町村）のうつりかわりを調べる】④ ・昔と今の絵地図比較 ・年表で調べる ・交通の進歩 【歴史新聞を作ろう】④ ・学習を振り返る	3		3	
社会科 時数 62 時間		生活科 年間総時数 105 時間		理科 時数 43 時間

(2) 単元の展開計画作成の手順

年間指導計画と一体的に扱う。したがって、学年始めに年間指導計画作成と並行して進める。

① 単元の目標を設定する。

具体的活動との関連が把握しやすい目標にする。具体的な視点として、以下の面からとらえる。

- ア 望ましい活動内容（習慣や技能、表現活動も）の面
- イ 社会や自然への関心・気付き、自分自身への関心・気付き等の面
- ウ 情意的側面（学習に対する関心、実践的な意欲や態度など）

② 学習活動を組織し、時数を想定する。

単元の学習活動を拾いあげ、活動のまとまり（小単元）に分け、活動相互の関連（つながり、広まり、深まり、発展など）を明らかにする。

小単元ごとに予想される主な活動と時数を押さえる。

③ 単元の展開を計画する。

小単元を組み込んで配列する。その際、留意することは、以下のとおりである。

- ・ 活動の発端を児童の興味・関心から生まれるようにする。
- ・ 児童の能動性を重視する。
- ・ 学習活動が児童の日常生活に連続していくようにする。
- ・ 活動内容と児童の日常生活や他教科・他領域との関連を図る。

④ 単元の各活動に即して標準時数を明記する。

⑤ 上記③の展開計画に評価計画を組み込む。

①の単元目標に基づき評価の観点を明確にしておく。（観点別評価項目例 pp. 24-25）

単元の展開計画様式例は省略。

(3) 学習指導案作成の手順と配慮

単元展開計画を基に、児童の実態や題材（地域素材）に配慮しながら、どのような活動や体験を通してどのような力を育てるかを明らかにする。

学習指導案作成に当たっては次のことに配慮する必要がある。

1 単元名

年間指導計画の大単元名と同じにし、児童の主体的なかかわりを誘い、活動を促すような表現で示す。

2 目標

学年目標や内容との関連を図るとともに、児童の活動の様子がわかるように「～できる」等の行動目標の形で表現する。単元全体にわたって観点別に目標を示す。

3 展開について

(1) 単元について

学年目標や内容、あるいは内容選択の視点とのかかわりから、この単元はどのような活動や体験をさせるのに適した内容か、めざす子ども像と関連させて、児童にどのような力を育てたいかという教師の願いを明らかにする。

(2) 児童について

児童がこれまでどんな体験をしてきたか、現在どのような生活をし、児童にどのような力があるか、あるいは不足しているか等、主として本単元にかかわる児童の実態を、調査などを基に明らかにする。

(3) 単元の展開に当たって

児童の興味、関心、欲求などの実態や教師の願いを基に、地域の特性を生かしながらどのような活動や体験をさせようとするかを明らかにし、その手立てを具体化する。

それと同時に、生活科の目標に示されている次の四つの視点について、どのように学習活動の中に位置付けていくかを考慮する。

- ① 具体的な活動や体験を通すこと
- ② 身近な社会や自然とのかかわりに関心をもつこと
- ③ 自分自身や自分の生活について考えること
- ④ 生活上必要な習慣や技能を身に付けること

4 指導計画（○時間扱い、本時○／○）

単元の展開計画を基に、小単元名と小単元ごとの主なねらいや活動、活動への手立てや準備、指導の配慮等を記す。

5 本時の指導

(1) 目標 具体的な行動目標（「～できる」）の形で示す。

(2) 展開 児童の主な活動や教師の働きかけと予想される児童の反応を中心に、指導上の留意点、素材、評価の観点、方法等を示す。

段階	時間	学習活動	○教師の働きかけ	●予想される児童の反応	○留意点・素材	・評価の観点と方法等
導 入		1 今日の活動の見通しをもつ。 2	○ みんな今日こそ成功しそうですね。今日はどこから始めるのかな。	● 山の水をたぬるところをほります。	○ 汚れてもいい服装にする。 ・手作りシャベル じょうろ	態度 ・ 作る意欲をもち、自分の考えを素直に表現しているか。

(3) 学習過程における各段階の位置付け

導 入 〈親 し む〉 〈課題把握〉	○ 興味をもって児童が活動できる雰囲気づくりの段階 ○ 本時のねらいを達成させるために、「ほく、わたしはこの時間にこれやろう（こうしよう）」という、児童なりの見通しをもたせ、興味・関心を喚起させる。
展 開 〈具体的な活動〉	○ 本時の見通しをもたせ、具体的な活動をさせる段階 ○ 「かかわり」をキーワードにし活動に熱中させる。 ・ 素材と自分自身とのかかわり ・ 自分自身と他とのかかわり ○ 児童の多様な発想を生かし、新しい方向への広がり・深まりを導く手立てや働きかけをする。
終 末 〈自分への振り返り〉	○ 活動の跡をその児童なりに表現させる段階。自分の考えを他の友達に紹介するという意味合いをもたせる。 ・ 口頭 ・ 作文 ・ 絵 ・ その他 ○ 次の時間にも本時の意欲が継続できるような手立てを講じる。

(4) 授業研究の視点

① 具体的な活動や体験に関して
・活動・体験が児童の発達段階に即し、有効なものか。 ・活動にはいる前の興味・関心は旺盛か。 ・活動に意欲的で集中しているか。 ・一人一人の児童が充実感と満足感を味わっているか。 ・児童が活動しているときの指導・援助は適切か。
② 自分と身近な社会や自然とのかかわりに関して
・社会と自然をできるだけ一体的、あるいは関連を考慮して取り扱うように配慮しているか。 ・児童がそこに生活しているものとして、興味・関心のもてる素材か。 ・学習の場が児童の生活圏であり、かかわりを具体的に把握できるものであるか。 ・地域の特性が生かされているか。 ・一定の活動のなかで、児童が気付いたり分かったりするなどの具体的なねらいが明確になっているか。
③ 自分自身や自分の生活に関して
・自分ができるようになったことや自分の役割に気付くような場や機会が設定されているか。 ・児童ができるようになったことや役割を果たせたことを見逃さずに教師が認めたり、ほめたりしているか。 ・自分を支えてくれた人や環境に気付くような工夫をしているか。 ・児童が自分や自分の生活を考えるようにする工夫がみられるか。
④ 生活上必要な習慣や技能に関して
・本時で重点的に取り上げた習慣や技能が具体的になっているか。 ・児童が自主的に行おうとするための工夫がみられるか。 ・児童自身がそれらを大切なことと考えて行動しているか。
⑤ 自立への基礎（生活の基礎的能力や態度）に関して
・一人一人の児童の実態を把握しているか。 ・一人一人に身に付けさせたいことや伸ばしたいことを明確にし、その変容に向けて適切な援助を行っているか。

(5) 環境マトリックス作成の手順

生活科は、児童の生活圏に学習の場や学習素材があるので、指導計画作成の前提として、地域の環境を具体的に把握することが不可欠である。

環境マトリックスには生活科の学習に生かせる学習素材が地域のどこにあるのか、それはどのように活用できるのか、活用できるのはいつごろかなどとともに、学習素材の主な内容や選択の視点を明示しておき、生活科マップや生活科暦と合わせて活用すると有効である。

環境マトリックス作成の手順は以下のとおりである。

- ① 地域にある学習素材を分類する。
学習素材は、どこにあるのか、いつごろ、どのように活用できるかを見極めるために、生活科の「内容選択の視点」を基本にする。
- ② 多様な活動ができるようなおおよその内容を念頭において、季節ごとに実態調査をしながら学習素材を探す。
- ③ いくつかの項目に分けて整理する。
例えば「児童の自然的環境」、「児童の社会的環境」、「児童自身のこと」から学校及び周辺の施設・設備、自然、行事、催しなどについて項目を設定する。
- ④ 生活科の内容・内容選択の具体的な視点や素材選択の視点等に基づき、素材を吟味する。

素材選択の視点例

- ア 具体的な体験や活動ができるもの
- イ 児童の生活圏にあるもの
- ウ 社会や自然と自分とのかかわりがとらえられるもの
- エ 一人一人の児童が意欲的に活動できるもの
- オ 活動に連続性があり、発展性のあるもの
- カ 安全に活動できるもの

- ⑤ 素材の教材価値を判定する。

(6) 活動・体験マトリックス作成の手順

豊かな活動や体験を盛り込んだ単元構成や授業を展開するためには児童の発達課題として予想され、しかも教師がねらいとする内容を含む活動や体験を洗い出し、相互の関連や教材としての価値等を分析しておくことが大事である。

活動・体験マトリックス作成の手順は以下のとおりである。

- ① 児童に可能と思われる具体的な活動や体験を想定する。
環境マトリックス、生活科暦、学校行事、学年行事、児童の意識調査や実態調査等を参考にする。
- ② 環境マトリックスや生活科マップを参考にしながら活動場所を考える。
- ③ 各活動や体験で育てていきたい内容を明らかにする。
- ④ 学年の内容とのかかわりを押さえる。
- ⑤ 児童の実態、学校の実態、地域の実態を勘案して、指導する学年を決める。
- ⑥ 総合判定をする。

⑦ いくつかの項目に分けて整理する。

例えば、(様式例)に示すような「自分と社会とのかかわりに関するもの」、「自分と自然とのかかわりに関するもの」、「自分自身に関するもの」等に分類して表に明記する。

環境マトリックス (様式例)

項目・観 点	学 習 素 材	素材の内容や考えられる活動の内容、かかわる地域の人々など	内容選択の具体的に観 点											学習素材選択の観 点					備 考	総合判定 ◎○
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	ア	イ	ウ	エ	オ	カ		
児童の社会的環境	学校内の施設・設備	校舎内																		
		校舎外																		
	学校周辺の施設・設備	公共の施設・設備																		
		道路の施設・設備																		
		商業・工業関係																		
児童の自然的環境	学校周辺の施設・設備	その他の施設・設備																		
	他	文化・歴史・産業など																		
	学校内	動物																		
		植物																		
		その他の自然環境																		
児童自身とかかわる生活	学校周辺	動物																		
		植物																		
		農業・漁業関係																		
		気象・その他の自然環境																		
	行事・催し	学 校																		
	学 校	学 校																		
	校区や季節の行事	校区や季節の行事																		
	家 庭	家 庭																		
	遊び・友達・生活全般	遊び・友達・生活全般																		
	その他	その他																		

活動・体験マトリックス（様式例）

項目・活動場所	活動や体験の内容	内容選択の具体的な視点										学年	学年の内容						活動や体験で育てていきたいこと	備考	総合判定 ○◎
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)			
		学	校	校	内	校	外	学	校	周	辺		1	2	3	4	5	6			
校舎内	・ ・ ・																				
校舎外	・ ・ ・ ・ ・																				
公共の施設	・ ・ ・																				
道路の施設	・																				
商業・漁業・工業関係施設	・ 港見学																				
その他の社会環境	・ ・																				
動物																					
植物																					
その他の自然環境																					
動物																					
植物																					
農業・漁業関係																					
気象・その他の自然環境																					
学 校																					
学 校																					
校区や季節の行事																					
遊び・友達生活全般																					
健康・安全																					

(7) 生活科マップと生活科暦の作成の手順

生活科は児童の生活圏に学習の場や学習の素材を求めるため、児童を取り巻く地域環境の把握が指導計画作成の前提となる。教師自身が自らの目と足で観察や調査をし、地域にある自然の事物・現象・社会的な施設や社会事象を児童とのかかわりで探し出し、それを生活科マップや生活科暦に整理しておくことが大切である。

環境マトリックスや活動・体験マトリックスはその原本として活用できる。

その際、次のような大まかな視点で整理する。

- ア 児童がかかわりのもてる虫や草花・植木等の動植物、川や池等の分布や特徴
- イ 児童がかかわりのもてる施設・設備等の分布や特徴
- ウ 児童がかかわりのもてる人々の分布や特徴
- エ 児童がその場で活動できる可能性

《生活科マップ》

- ① 探し出した学習素材と「内容選択の視点」との関連を図る。
- ② 児童の生活圏（主に学区の範囲）で大まかな地図をつくる。
ただし、生活科の指導に関連するもの以外は必要最小限にする。
- ③ 地図に学習素材の分布を記載する。

学習の柱となる素材については次に示すような説明を加えておく。また、学習素材を簡単な絵で示すなどの工夫をする。

- ・「○○公園」……遊具や施設があり、地域の人々の活用が多い。
- ・「△△の森」……自然の草花が多く、自然にかかわる活動が季節に応じてできる。

《生活科暦》

- ① 諸行事や季節的な特徴など、時期が特定される事項を挙げてみる。例えば次のような項目に分けて整理する。
ア 地域の自然（動植物、季節の変化等）
イ 地域の行事
ウ 児童の生活、遊び、自然、行事とのかかわりのある活動等
エ 学校の行事（家庭訪問、運動会、○○大会等）
- ② 項目ごとの事項の関連が一覧できるように月ごとに表にまとめる。
- ③ 単元の配列や単元の構成との関連を図る。

(8) 評価の進め方

新しい学力観の特色は自ら学ぶ意欲と思考力・判断力・表現力などの諸能力を基本としている。このような学力は個性的なものであり、その評価は一人一人の達成度やよさ、可能性を重視し大切に育てていく指導と一体的に進められなければならない。この前提に立ち、しかも生活科の趣旨にそった評価が求められる。

- ① 生活科における評価の特色

- ア 具体的な活動や体験の広がりを経合的に評価する。
- イ 一人一人に即した評価をする。
- ウ 意欲や関心などの情意面や実践的な態度を評価する。
- エ 学習の結果そのものよりも学習活動の過程で示す努力や積極性を重視する。
- オ 単元全体を通した長期的な見通しに立って、継続的に児童の活動意欲やその変容を読み取る評価をする。

② 評価の観点・趣旨及び内容

ア 生活への関心・意欲・態度（１・２年）

身近な社会や自然及び自分自身に関心を持ち、進んでそれらとかかわり、楽しく学習したり、意欲的に遊びや手伝いなどをしたりしようとする。

- ・ 身近な社会や自然の中で、児童がその活動や体験にどれほどの興味や関心を示し、豊かな体験をしているか。
- ・ 自分自身や自分の生活への関心があるか。
- ・ 意欲と自信をもって活動しているか。
- ・ 集団や社会の一員としてよりよい生活を営もうとする意欲や態度が育っているか。
- ・ 積極的に学習に取り組む意欲や態度が育っているか。
- ・ 自然と触れ合うことを大切にしようとする意欲や態度が育っているか。
- ・ 自分自身を大切にし積極的な生活を営もうとする意欲や態度が育っているか。

イ 活動や体験についての思考・表現（１・２年）

調べたり、育てたり、作ったりするなどの活動や学校や家庭などにおける自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それを素直に表現する。

- ・ 自分自身や自分の生活に対する思考・工夫があるか。
- ・ 自分の気持ちや考えを素直に表現したり、他人の話をよく聞いているか。
- ・ 現在やこれまでの自分について絵や作文、ことば、動作などで表現しているか。
- ・ 遊ぶものを作ったり、それを使って遊んだりする技能が身に付いているか。
- ・ あいさつやルールを守るなどの習慣が身に付いているか。
- ・ 観察力や表現力などの能力が育っているか。
- ※ 基本的な生活習慣については行動の記録（基本的な生活習慣）との関連を図る。

ウ 身近な環境や自分についての気付き（１年）

具体的な活動や体験を通して、学校生活や家庭生活、身近な自然や動植物、入学してからの自分の生活などの様子に気付いている。

（２年）

具体的な活動や体験を通して、日常生活や公共物の利用、身近な自然や動植物、生まれてからの自分の生活などの様子に気付いている。

- ・ 自分自身や自分の生活への気付きがあるか。
- ・ 身近な社会や自然のどんなことに、どの程度気付いているか。

③ 評価の手順・手続き（様式例は p. 23）

ア 学習指導要領に示された観点別の目標や具体的評価目標などを参考にして、各学校で単元や小单元ごとの目標をさらに具体的に細目化する。

それを「おおむね満足できる状況や状態である＝Ｂ」の判定基準としてもよい。

※ 判定基準設定の際は本報告書の観点別評価項目例（pp. 24-25）を参考にするとうい。

イ さらに、どのような状況、状態ならばＡ「十分満足できる」か、Ｃ「努力を要する」かの判定基準を設定する。

ウ ①、②を評価の観点ごとに分類して、児童一人一人の「観点別学習状況」を評価する。その際、Ａ（＋＋）、Ｂ（＋）、Ｃ（０）、Ｄ（－）や◎、○、△、×などの記号でチェックしたり、文章表現で補足する。

※ 全項目にわたって、毎時間、全員を評価することは無理なので、できる範囲で評価する。

エ 単元を通して、個人に変容があった場合 → → → で累積していく。

オ ２、３の「観点別学習状況」では、取り上げられなかった努力や成長、変容については所見の欄に文章で補足し、通信等で家庭にも知らせる。

④ 評価の方法・留意点

ア 評価結果は絶えず次の活動や指導に生かすようにする。

イ 多様で柔軟な評価方法を取り入れ、工夫する。例えば次のようなものが考えられる。

- | | | |
|--------|--------|-----------|
| ・ 行動観察 | ・ 面接 | ・ 家庭連絡 |
| ・ 発言分析 | ・ 自己評価 | ・ 日常観察 |
| ・ 作品分析 | ・ 相互評価 | ・ 授業記録と分析 |

ウ チェックリストをつくって評価する場合、評価項目が大まかだったり判定基準が不明瞭だったりすると、一人一人の実現状況や変容を読み取ることが難しいので、できるだけ具体的に細目的な評価項目や判定基準を想定したほうがよい。しかし、あまりに詳しく評価しようとして援助・指導がおろそかにならないよう留意する。

エ 授業中にチェックリストを持って、いちいちチェックするよりも授業終了後に記録しておく。

オ １単位時間のうちに教師一人で全員の児童を評価することは困難であるから重点的に評価する児童を決めておき、順次評価していく。この際、興味や関心、レディネス等が同質（類似）の児童の中から一人を抽出して評価する方法が効果的である。

カ また学年内において、協力教授（Ｔ・Ｔ）方式など工夫すれば、評価もより多面的かつ

客観的にできる。

キ 複式学級における評価は今後の検討課題であるが、基本的には各学年の目標基準に対する絶対評価とともに、個人内の達成度（変容、成長等）を評価する。

観察・評価の記録（様式例）

年単元No

小学校 年 組

評価項目 児童名	生活への関心・意欲・態度		活動や体験についての思考・表現		身近な環境や自分についての気づき		特記事項
	(1)ダムの役割に関心をもち、友達と協力してダムをつくったか	(2)リングの皮むきやジャムづくりに興味をもち、意欲的に取り組んだか	(1)吹浦の海の様子を自分なりの表現で山の子どもに伝えることができたか	(2)どんぐりをつかった遊び道具を自分なりに考え工夫してつくったか	(1)金盞の夏の花や露の生き物の様子を思い出したか	(2)裏山の秋の様子や虫、花の様子に気づいたか	
山形 太郎	→ → →	D → C → B →	→ → →	A → B → A →	→ → →	→ → →	
観察記録補足							
庄内 次郎	→ → →	→ → →	C → B → B → A	→ → →	→ A → A → A	→ → →	
観察記録補足							
最上 三郎	C → B → C → B	→ → →	→ → →	B → A → A →	→ → →	→ A → → A	
観察記録補足							
	↑				↑		
この欄は単元の内容に合わせて適宜増減する。		この欄は単元の内容に合わせて適宜増減する。		この欄は単元の内容に合わせて適宜増減する。		この欄は単元の内容に合わせて適宜増減する。	
観察記録補足の欄及び特記事項の欄は観点別評価を文章記述で補足する欄なのでもっと広く使う。							

*生活科 内容選択の視点と観点別評価項目例

- ① 生活への関心・意欲・態度
② 活動や体験についての思考・表現
③ 身近な環境や自分についての気づき

内容選択の視点	具体的な活動や体験によって育 てたいこと	観 点	観 点 別 評 価 項 目 例
① 健康や安全に気 を付けて、遊びや 生活ができるよう にする (健康で安全な生活)	・自分の体に関心を持ち、健康 に気を付けて生活ができる。	① ①	・体の調子に関心を持ち、健康に気を付けて生活している。 ・食事や睡眠などに関心を持ち、規則正しい生活をしようとしている。
	・学校や近所などで、安全に遊 びや生活ができる。	①	・学校や近所の公園などで、安全に気を付けて活動できる。
	・通学路などにおいて、安全な 歩行ができる。	②	・交通ルールを守り、安全に注意して通行できる。
② 家族や友達、先 生などと適切に接 することができる ようにする。 (身近な人々との 接し方)	・家族や友達や先生などと自分 とのかかわりについて考え、 挨拶をしたり、話をしたり、 話を聞いたりすることができる。	① ②	・家族や友達や先生などに挨拶をしたり、正しい言葉遣い で話することができる。 ・家族や先生などに自分のことや、見たこと、聞いたこと などを、正しく話すことができる。
	・近所の人や店の人と適切な接 し方ができる。	②	・店の人に値段を聞くなどして、上手に買い物ができる。
	・家にくる人たちとの対応がで きる。	① ②	・近所の人に挨拶をしたりして、適切に対応している。 ・客に挨拶をし、名前や用件を尋ねたり、取り次いだり 案内したりすることができる。
③ 公園や乗り物な どの公共物を大切 に利用できるよう にする。 (公共物の利用)	・近所の公園や学校などの施設 設備などを大切に使うことが できる。	① ③	・公園や学校などのいろいろな施設・設備を、みんな でなかよく、大切に使用している。
	・乗り物や駅などはたらしきや 利用の仕方が分かり、みんな で気持ちよく利用できる。	② ③	・交通機関の利用の仕方を守り、互いに譲り合ったりし て、安全に利用できる。 ・乗り物や駅などの交通機関のはたらしきや、そこで働い ている人々の仕事の大切さに気付いている。
④ 生活に使うもの を大切にし、計画 的に買い物ができ るようにする。 (生活と消費)	・生活に使うものを整理整頓し それを大切にすることができ る。	①	・自分の持ち物に記名するなどしてよく整理整頓し、大 切に使おうとしている。
	・必要なものを自分で計画的に 買うことや、買い物のお使い ができる。	②	・自分の生活に必要なものを、よく考えて買うことが できる。
⑤ 日常生活に必要 なことを、手紙や 電話などによって 伝えることができる ようにする (情報の伝達)	・自分の考えていることを身近 な人に伝えたり、人が伝えて くれることを受けとめること ができる。	① ②	・先生や友達などの大切な話をよく聞こうとしている。 ・自分の考えていることを、友達や家族や先生などに正 しく伝えることができる。
	・家庭や学校生活に必要なこと などを、人に伝えることが できる。	②	・先生から家庭へ、又は、家庭から先生へ連絡するこ とを、正しく伝えることができる。
	・伝えたいことを手紙に書いたり 、必要なことを話したりす ることができる。	② ③	・自分の伝えたいことを、話や絵、手紙、電話などで伝 えることができる。 ・手紙が届く仕組みなどに気付いている。
⑥ 野外の自然を観 察したり、動植物 を飼ったり育てた りするなどして、 自然との触れ合い を深めることがで きるようにする (身近な自然との 触れ合い)	・動物や植物を飼ったり、育て たりして、生き物を大切にす ることができる。	① ③	・動物や植物の世話をし、大切に育てようとしている。 ・動物や植物は、自分たちと同じように生命を持ってい ることや生長していることに気付いている。
	・草花や木の実、土、砂などで 遊ぶことができる。	②	・草花や、木の実で遊ぶものを作り、それらを使って遊 ぶことができる。
	・野外の自然を観察し、動植物 の変化の様子などに気付くこ とができる。	① ③	・土や砂などを使って、楽しく遊ぶことができる。 ・野外に出かけ、そこにいる小動物や植物を探したり、 観察したりしようとしている。 ・動植物の生育場所や生長に伴う変化などに気付いてい る。

内容選択の視点	具体的な活動や体験によって育 てたいこと	観 点	観 点 別 評 価 項 目 例
⑦ 季節の移り変わ りによって生活が 変わることに関心 くことができるよ うにする。 (季節の変化と生 活のかかわり)	・季節の変化に関心を持ち、自 然の様子が変わることに関心 くことができる。	③ ①	・季節とともに、動植物が変化することに気付いている。 ・季節ごとによくみられる動植物を探しながら、自然に 接する楽しさを味わうことができる。
	・季節や天候によって、生活の 様子が変わることなどに気付 くことができる。	② ③	・季節や天候などの、自然の変化への対応を考えること ができる。 ・季節によって、地域の人々の生活の様子が変わること が分かる。
	・季節にちなんだ行事などを調 べ、みんなでそれを行うこと ができる。	①	・七夕や正月、雛祭りなどの季節の行事や地域の行事を 友達と一緒に楽しみながらすることができる。
⑧ 遊びや生活など に使うものを作り 楽しく遊ぶことが できるようにする (物の製作)	・遊びや生活に使うものなどを 作り、みんなで遊びなどを工 夫したりすることができる。	② ②	・身の回りにある材料などを用いて、遊ぶものを工夫し て作ることができる。 ・作ったものを使って、遊び方を工夫して楽しく遊ぶこ とができる。
	・季節や文化にちなむ行事のた めに必要なものを作って楽し み、自分とのかかわりに気付 くことができる。	① ① ③	・学校や学級の催しで使うものを、みんなで作ったり使 ったりしようとしている。 ・共同で作るものについては、自分の役割に気付きす んで取り組むことができる。
⑨ 自分でできるよ うになったことや 生活での自分の役 割が増えたことな どに気づき、自分 の成長を支えてく れた人々に感謝の 気持ちをもつこと ができるようにす る。 (自分の成長)	・自分でできるようになったこ とや自分の役割が増えたり、 友達が増えたりしたことに気 付き、意欲をもって生活す ることができる。	① ③ ③	・自分が成長したことを喜び、目標をもって生活してい る。 ・自分でできるようになったことや、自分の役割が増え たり、友達が増えたりしたことに気付いている。 ・入学してからの主な出来事や行事などを振り返り、自 分とのかかわりに気付いている。
	・自分の成長には多くの人々の 支えがあったことに気づき、 それらの人々に感謝の気持ち をもつことができる。	③	・自分の両親をはじめ、周囲の人々に支えられながら成 長したことに気づき、感謝の気持ちをもっている。
⑩ 日常生活に必要 な習慣や技能を身 に付けるようにす る。 (基本的な生活習 慣や生活技能)	・手や体を上手に使い、友達と 協力して活動や体験ができる。	①	・友達と仲良く遊んだり、協力して活動したりしている。
	・日常生活における整理整頓や 遊びや活動に必要な用具等の 準備や後始末ができる。	① ②	・自分の持ち物を決められたところに置くことができる。 ・遊びや生活に必要なものをきちんと準備したり、後始 末することができる。
	・挨拶や生活の規律などの、日 常生活に必要なことを大切に して、仲良く生活すること ができる。	① ① ③	・相手やその場に合った挨拶の仕方や話し方をしようと している。 ・生活に必要なきまりの大切に気づき、これを守ろうと している。
	・相手に気を配って接すること ができる。	①	・友達などのことをよく考えて行動しようとしている。

2 地域の特性を生かした学校の実践

地域に根ざした豊かな活動や体験を取り入れた指導計画と学習展開例を作成するために、本研究の「研究の視点」や「研究の仮説」、「めざす子ども像」等を提示して、四つの特徴的なイメージをもつ地域（山、海、里、町）の学校に研究協力を依頼した。

この章に掲載したものは各研究協力校が実践した事例の中から、地域の特性や児童の体験が豊かに盛り込まれた部分を重点的に抜粋し配列しており、主に次のような内容を含むものである。

したがって、実践例における学校間の関連は図られていない。

○生活科研究の全体構想	（尾花沢市立福原中部小学校）	28
・めざす子ども像		
・研究仮説		
・仮説検証のための具体的な手立て		
○児童の生活実態調査	（尾花沢市立福原中部小学校）	29
○環境マトリックス	（米沢市立西部小学校）	30
○活動・体験マトリックス	（米沢市立西部小学校）	32
○年間単元配列及び教科内容との関連	（遊佐町立吹浦小学校）	34
○生活科複式年間指導計画案	（朝日町立上郷小学校）	35
○単元と内容選択の視点との関連表	（遊佐町立吹浦小学校）	36
○単元展開の事前調査と援助計画	（朝日町立上郷小学校）	37
○単元の展開計画	（米沢市立西部小学校）	39
○単元構想図	（尾花沢市立福原中部小学校）	40
○学習指導過程及び授業実践のまとめ		
（その1）	（朝日町立上郷小学校）	41
（その2～その3）	（遊佐町立吹浦小学校）	44
（その4～その5）	（尾花沢市立福原中部小学校）	49
（その6）	（米沢市立西部小学校）	54
○生活科マップ	（遊佐町立吹浦小学校）	57
○生活科暦	（遊佐町立吹浦小学校）	58
○評価資料	（朝日町立上郷小学校）	59

〈研究授業実施一覧〉

日 時	研究協力校	学 年	授 業 者
9月19日(木)	朝日町立上郷小学校	1～2年	教諭 逸見 智子
8月29日(木)	遊佐町立吹浦小学校	2年	教諭 中 條 秀
		1年	教諭 池 田 裕 美
10月8日(火)	尾花沢市立福原中部小学校	2年	教諭 竹 埜 理恵子
		1年	教諭 元 木 久美子
10月17日(木)	米沢市立西部小学校	2年	教諭 櫻 井 順 一



「よし！この水を流せばダムのできあがりだ」
（朝日町立上郷小学校）



「なにがつれるかな」
（遊佐町立吹浦小学校）



「どんぐりだんごおいしそう」
（尾花沢市立福原中部小学校）



「きんちょうするなあ」
（米沢市立西部小学校）

生活科研究の全体構想 (尾花沢市立福原中部小学校)

I めざす子ども像

学校でめざす子ども像

1. 身近な地域の事象に関心をもち、意欲的に学習できる子ども	2. 学習の方法が分かり、自分の考えを表現できる子ども	3. 仲間と協力し合い、根気よく学習できる子ども
--------------------------------	-----------------------------	--------------------------

生活科でめざす子ども像

(1) 身の回りの自然や社会に自分なりのこだわりをもって働きかけ、生活を工夫する子ども	(1) 見たこと・感じたことを、自分なりに言葉や体で表現できる子ども	(1) 活動の楽しさを味わうことができる子ども (成就感、克服感、創造性)
(2) 五感を働かせて、自然の仕組みや美しさをとらえる子ども	(2) あいさつの仕方や生活のきまりをしっかりと身に付け、自分の考えで行動できる子ども	(2) 友達の考えを認め合い、協力する子ども (協同性、協調性)

具体的子ども像

① 動植物を飼ったり、育てたりして生きものを大切にすることができる	① 好奇心をもち、熱中して取り組むことができる	① 遊びや生活に必要なきまりを守ることができる
② 学校の周りや学区内の動植物に興味をもち、遊ぶことができる	② 先生の話や友達の話聞き取るることができる	② 友達と仲良く遊んだり、協力して仕事をすることができる
③ 地域の行事やお祭りに楽しく参加することができる	③ 自分の考えをはっきり話すことができる	③ だれにでも気持ちよくあいさつすることができる
④ 季節や天候に応じて、自分の生活を工夫することができる	④ 観察したことや教えたいことを、絵や文に表すことができる	④ お世話になった人に感謝することができる

中学年でめざす子ども像

(1) 自分たちが住んでいる地区や市、自然に関心をもち、	(1) 一人一人が疑問をもち、進んで問題を解決する。 (2) 学習に必要な資料を集め、比較・関連づけて考える。	(1) 互いに意見を発表し合い認め合う
------------------------------	--	---------------------

II 研究仮説

- 身近な地域の事象を教材化し、体験を重視した活動過程を工夫すれば意欲的に身近な社会や自然に働きかける活動ができる。
- 子どもの興味関心に支えられた活動の場を設定すれば、好奇心をもち熱中して取り組み、楽しく生き生きと友達とかかわりながら追求ができる。
- 多様な表現活動を取り入れることにより、自分なりの考えを表現することができる。

III 仮説検証の具体的手立て

- 子どもたちの身近な生活や地域の中から子どもの興味関心に支えられた魅力ある活動を開発し、年間計画に位置付ける。
- 直接体験活動や五感を働かせて活動できる単元構成を図る → 単元(活動)構想図の作成
- のびのびと自己表現できる表現活動を工夫する。

《豊かな体験活動の視点》

- ① 児童の興味や欲求に基づくもの
- ② 活動に多様性があり、広がりや深まりが期待できるもの
- ③ 新鮮さがあり満足感や達成感を伴うもの
- ④ 教師と児童、児童と児童の対話や協力を伴うもの
- ⑤ 今後の生活に生かすことができる可能性が大きいもの
- ⑥ 児童が発達課題を獲得できるもの

《活動過程の工夫》

興味をもつ	体験活動	表現
①導入の工夫	②五感を使っての観察や具体的活動(育てる・作る・遊ぶ・劇化・試す・探す・観察・見学)の工夫	③書く、話す、描く、作る、動作化、歌を作る等での表現活動の工夫

《活動過程における援助の工夫》

① 子どもたちが活動のめあてをはっきりもてる援助	① 子どもたちの活動に広がりや深まりをもたせる援助 ・ こだわりをもたせる ・ 個を認める言葉(励ます、ほめる、教える) ・ 友達とかかわりを広める ・ 活動の転換を図る ・ 気付きの共有化 ・ 安全への配慮	① 自分の思いや考えを伝える援助 ・ 自分の活動を振り返る(成就感、満足感) ・ 多様な表現の仕方 ・ 友達にも認められる場
② 活動の必要感をもたせる動機づけの在り方 ・ 活動のイメージ ・ 大まかな活動の見通し ・ 意欲づけ		

児童の生活実態調査 — 2 年 — (尾花沢市立福原中部小学校)

氏名	項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
1. 朝一人で起き、夜一人で寝ることができる	1. 朝一人で起き、夜一人で寝ることができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2. 家族に「おはようございます」「おやすみなさい」を言うことができる	2. 家族に「おはようございます」「おやすみなさい」を言うことができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3. 家に来たお客さんにあいさつができる	3. 家に来たお客さんにあいさつができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4. 朝夕のごはんをしっかりと食べ、はしを上手に使うことができる	4. 朝夕のごはんをしっかりと食べ、はしを上手に使うことができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5. はきみを上手に使うことができる	5. はきみを上手に使うことができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6. 遊んだ後、あとかたづけができる	6. 遊んだ後、あとかたづけができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7. 遊びに行く時、行き先を話して行く	7. 遊びに行く時、行き先を話して行く	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8. 一人で家園を著たりぬいだりできる	8. 一人で家園を著たりぬいだりできる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
9. 電話を一人でかけることができる	9. 電話を一人でかけることができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
10. 一人で買い物に行くことができる	10. 一人で買い物に行くことができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11. 自分の考えをはっきり言うことができる	11. 自分の考えをはっきり言うことができる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12. だれとでも仲よくでき、人見知りなどしない	12. だれとでも仲よくでき、人見知りなどしない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
13. 交通安全について自分なりに注意している	13. 交通安全について自分なりに注意している	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
14. 家の手伝いをする	14. 家の手伝いをする	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
15. 家の人の名前を全員言える	15. 家の人の名前を全員言える	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16. 家の住所や電話番号を正しく言える	16. 家の住所や電話番号を正しく言える	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
17. おもちゃや遊ぶものを自分で作ったことがある	17. おもちゃや遊ぶものを自分で作ったことがある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
18. 手紙やはがきを出したことがある	18. 手紙やはがきを出したことがある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19. 家の人とバスか列車に乗って出かけたことがある	19. 家の人とバスか列車に乗って出かけたことがある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20. 家の中で遊ぶより外で遊ぶことが多い	20. 家の中で遊ぶより外で遊ぶことが多い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
21. 自分が赤ちゃんのころに関心をもちている	21. 自分が赤ちゃんのころに関心をもちている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22. 虫をこわがったりしない	22. 虫をこわがったりしない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23. 野菜や草花を育てることに興味があり、土いじりをする	23. 野菜や草花を育てることに興味があり、土いじりをする	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24. 虫の名前をよく知っている	24. 虫の名前をよく知っている	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25. 草花の名前を五つ以上言える	25. 草花の名前を五つ以上言える	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26. 生き物(犬、猫、小鳥、虫など)を飼って世話をしたことがある	26. 生き物(犬、猫、小鳥、虫など)を飼って世話をしたことがある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
27. 川遊びをしたことがある	27. 川遊びをしたことがある	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

*調査の仕方

- ①保護者から調査項目について以下のよう
な観点から主観で記入してもらった。

◎：自分から進んでできる、進んで
言える。
○：ふつう。
△：がんばる必要がある。

②1～4、7～10、14以外の項目について
は、学校での児童の実態を加味した。

考 察

- ・あとかたづけの項目に△が多い。学校で
しっかりとできる児童でも、家に帰ってか
らとなるとべつべつのである。
- ・遊びや宿題の確認等で電話を利用して
いる児童が多いが、しっかりと対応できる
とみている保護者は少ない。
- ・2年児童としては、買い物や乗り物の利
用の項目に△が多いように見える。自家
用車を利用し、大型店に買い物に行く家
庭が多いという地域性が関係しているの
ではないだろうか。
- ・学校や家の周りには季節ごと数多くの草
花が咲き誇るが、名前に関心をもちて
いる児童は少ないようである。

項 目 ・ 観 点		学 習 素 材	学 習 素 材 の 内 容	
見 童 の 社 会 的 環 境	学 校 内 の 施 設 ・ 設 備	校舎内	・校舎のつくり	教室，特別教室，体育館など
			・働く人	校長，技術員，給食のおばさん
		校舎外	・うさぎランド	うさぎ2匹（年により変動）
			・どろんこ広場	1クラス活動可，水道有り
			・中庭の砂場	1クラス活動可，水道有り
			・校庭や遊具	樹木，雨水の流れ確認可
			・中庭の池	たくさんの鯉，噴水有り
		公共の施設・設備	・館山公園	桜の名所，どんぐり，トイレ有り，徒歩40分
			・西部公民館	お年寄りとの交流可，徒歩1分
			・郵便局	校区内に三か所，本局へはバスか車で見学可
	・西米沢駅		米坂線，無人駅（キップ販売を委託），徒歩5分	
	・御成山公園		市内を一望，どんぐり，徒歩60分	
	道路の設備や交通機関	・信号機や横断歩道	校区内のどこにでも見られる	
		・歩道橋	校区内に1か所	
		・汽車	西米沢駅から乗車可（1車両80名）	
		・バス	団体での乗車のみ可	
		学 校 周 辺 の 施 設 ・ 設 備	商業・工業・農業関係	・商店やスーパーマーケット
	・機織工場			地域の特産品
	・果樹園			りんごやさくらんぼなど
	・田畑			稲作・野菜など
・館山果樹選果場	等級別に分ける			
文化・歴史関係	・上杉家廟所		歴代の殿様の墓，多くの観光客，トイレ有り	
	・熊野神社		遊具，広場，トイレ有り	
見 童 の 自 然	学 校 内	動物	・うさぎ	うさぎランド内で飼育
			・金魚・鯉・なまず	水槽と池にて飼育
			・ハト・ツバメ	校舎に巣がある，多数
			・バッタ・コオロギ	トノサマバッタ・イナゴ多数など 三中跡地に多い
			・どじょう	多数 北側側溝に多い
	植物	・鉢植え	アサガオ・ヒマワリ・ヒヤシンス・チューリップなど	
		・花壇	・ミニトマト・サツマイモ・ジャガイモ・枝豆・トウモロコシなど	
		・雑草	シロツメグサ・エノコログサ・ヨウシュヤマゴボウ・オナモミ セイヨウトンボ・アメリカセンダングサ・オオバコなど	

活動・体験マトリックス（米沢市立西部小学校）

項目・活動場所			活動や体験の内容	内容選択の具体的な視点（○）										
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
自分と社会とのかかわりに関するもの	学 校 内	校舎内	・学校探検	○	○	○								○
			・学校で働いている人の紹介	○	○	○								○
			・学校の地図を作ろう									○		○
	校舎外	・遊具で遊ぼう	○		○								○	
		・どろんこ遊びをしよう			○			○		○			○	
		・砂遊びをしよう			○			○		○			○	
	公共の施設・設備	・雨の日の探検						○	○				○	
		・公園の四季	○		○			○	○				○	
		・公園探検、公園で遊ぼう	○		○			○	○				○	
	学 校 周 辺	道路の設備や交通機関	・郵便局見学	○	○	○		○					○	
・駅見学			○	○	○							○		
・通学路の紹介			○		○							○		
商業・工業・農業関係		・自分の家の紹介	○		○							○		
		・汽車やバスに乗ろう	○	○	○	○						○		
		・買い物をしよう	○	○	○	○						○		
・町の探検		○	○	○	○	○	○	○			○			
・町の地図を作ろう										○	○			
・機織工場見学		○	○	○		○					○			
・選果場見学		○	○	○		○					○			
文化・歴史関係	・上杉家廟所見学	○	○			○					○			
	・遊具で遊ぼう	○		○							○			
自分と自然とのかかわりに関するもの	学 校 内	動物	・うさぎと仲よし						○			○	○	
			・魚たちの世話をしよう							○			○	
			・ハトやツバメの世話をしよう							○	○		○	
	校舎外	・学校の生き物探し							○	○		○		
		・秋の虫と遊ぼう							○	○		○		
		・生き物マップを作ろう									○	○		
	植物	・自分の花を咲かせよう（一人一鉢）							○	○		○		
		・クラスの花を咲かせよう							○	○		○		
		・育てよう（アサガオ、ヒマワリなど）									○	○		
	学 校 周 辺	動物	・収穫しよう（ミニトマト、サツマイモなど）							○	○		○	
・草花や落ち葉で遊ぼう									○	○		○		
・ぼく、わたしの木									○	○		○		
植物		・草花マップを作ろう									○	○		
		・ザリガニ釣りに行こう							○	○		○		
		・自分で飼ってみよう（カタツムリ、ザリガニなど）							○	○		○		
山や川		・虫と遊ぼう（イナゴやバッタなど）							○	○		○		
		・草花で遊ぼう							○	○		○		
		・木の実で玩具を作ろう							○	○	○	○		
その他		・どんぐり拾いに行こう							○	○		○		
	・ソリ滑りに行こう	○		○				○	○	○	○			
その他	・河原で遊ぼう	○		○				○	○		○			
	・卵工場を見学しよう	○	○	○	○	○					○			
その他	・焼き物を作ろう									○	○			

学 年	学年の内容○						活動や体験で育てていきたいこと	総合 判定 ◎○
	1	2	3	4	5	6		
1	○						学校内の様子がわかり、楽しく生活できるようにする。	◎
1	○						学校で働いている人々のことがわかる	◎
1	○						学校内の様子を地図にまとめることができる。	◎
1	○	○					みんなのものを大切に利用できる。	○
1		○	○				土でいろいろな遊びができる。	◎
1		○	○				砂でいろいろな遊びができる	◎
2		○					天気による変化に気付くことができる。	◎
1		○					公園の四季の変化に気付く。	○
1		○	○				きまりを守って施設を利用できる。	○
2	○	○					仕事の内容に気付くことができる。	◎
2		○					駅と駅の周辺の様子に気付く。	○
1	○						安全に登下校することができる。	◎
2	○						学区の広さに気付くことができる。	○
2		○					安全への工夫や努力を知り、気持良く利用できる。	◎
2	○						店の人と適切に対応することができる。	◎
2	○	○					町の様子に気付く、まわりの人々と適切に対応できる。	◎
2	○	○	○				町の様子に気付くことができる。	◎
2	○						地域でさかんな産業を知る。	○
2	○						地域でさかんな産業を知る。	◎
2		○					地域の歴史に接する。	○
1		○					神社の施設を仲良く利用できる。	○
1			○				親しんだり、愛護する心情を育てる。	◎
1			○				水の中の生き物に親しむ。	○
2			○				鳥に関心をもつことができる。	○
1			○				虫に親しむことができる。	◎
1			○				虫に親しむことができる。	◎
1			○				住んでいる場所に気付く。	◎
1・2			○				世話をしながら、成長の変化に気付くことができる。	◎
1・2			○				みんなの力を合わせて世話することができる。	◎
1・2				○			収穫を目的に友達と協力して世話することができる。	◎
1			○				工夫して遊ぶことができる。	◎
1		○	○				季節の変化に気付く、命ある木を大切にすることができる。	◎
1			○				草花の生えている場所を知る。	◎
2			○				観察しながら、工夫して上手に釣ることができる。	◎
1・2			○				生き物を大切に育てることができる。	◎
1			○	○			工夫した遊びをしながら、虫への親しみを持つことができる。	◎
1			○				草花で楽しく遊ぶことができる。	◎
1			○				工夫しておもちゃを作る。	◎
1		○					どんぐり拾いの楽しさを味わう。	◎
1		○					自作のソリで滑って楽しむ。	◎
1			○				石ころなどで楽しく遊ぶことができる。	◎
2	○						鶏卵が出荷されるまでの工夫に気付くことができる。	○
2			○				生活に使う物を作ることができる。	○

生活科年間単元配列及び教科内容と関連（遊佐町立吹浦小学校 2 年）

学 期	月	単元名	時間	内容
		単元名	時間	内容
一 学 期	4月	1 わたしの町のたんけん (10) ●学区たんけんをしよう⑤		(内容 1) ・近所の人や店の人 ・買い物や使い、手紙や電話 ・適切に対応する
	5月	2 おみせやさん たんけん (3) ●スーパーで買い物しよう③ ●たんけんマップをつくろう⑤		
	6月	3 やさいやくだものを育てよう (8) ●自分のやさいを育てよう② ●大事にやさいを育てよう②		(内容 2) ・公共物の働きや人の働き ・正しい利用
	7月	4 雨の日も楽し (6) ●雨の日をたんけんしよう③ ●雨の日のあそびを考えよう③		
	8月	5 水の中の生き物 (4) ●ザリガニなどを飼おう④		(内容 3) ・季節や地域の行事 ・季節や天候の変化と生活 ・生活を工夫し楽しくする
	9月	6 吹浦の海をさぐる パート I (2) ●西浜で遊ぼう②		
二 学 期	10月	6 吹浦の海をさぐる パート II (9) ●十六羅漢や釜礫をたんけんしよう④ ●山の子どもたちに吹浦の海を教えよう⑤		(内容 4) ・遊びや生活に使うものを作る ・遊びを工夫する
	11月	7 秋の虫と友だちになろう (8) ●秋の虫を見つけよう④ ●秋の虫を飼ってみよう④		
	12月	8 おまつりをしよう (15) ●おまつりのことをしらべよう⑤ ●おまつりをしよう⑩		(内容 5) ・動植物や飼育や栽培 ・変化や成長 ・親しみをもち大切に
	1月	3 やさいやくだものの取り入れをしよう (4) ●やさいやくだものの取り入れをしよう② ●やさいやくだものを食べよう②		
	2月	9 ゆうびんやさんごっこをしよう (12) ●子どもゆうびんきょくをひらこう⑧ ●ねんがじょうをだそう④		(内容 6) ・生活や成長 ・感謝の気持ちと意欲的な生活
	3月	6 吹浦の海をさぐる パート III (2) ●冬の海を見にいこう②		
三 学 期	4月	10 冬も楽しくすごそう (8) ●冬の行事をしらべよう③ ●雪で遊ぼう⑤		
	5月	11 うごくおもちゃをつくろう (8) ●うごくおもちゃをつくろう⑥ ●おもちゃであそぼう②		
	6月	12 わたしの成長 (10) ●わたしの成長のアルバムを作ろう⑤ ●家の人に手紙を書こう⑤		

生活科複式年間指導計画案（朝日町立上郷小学校）

月	A 年 度		共 通 部 分		B 年 度	
	単 元 名	時間	単 元 名	時間	単 元 名	時間
4月	ようこそ 1 年生 ・ともだちをつくろう ・学校たんけんをしよう ・学校のいきかえり ・春さがしをしよう	(12) 3 3 2 2	・春の草花のおしばなをつくろう	2	・春の草花をつかった遊びをしよう	2
5月	・育ててみたい ひまわり・とうもろこし ・ちゃぼをそだてよう ・ちゃぼの成長絵本をつくろう	4 4 4	いきものともだち (15)		・育ててみたい あさがお・さつまいも ・かいこを育てよう ・かいこの成長アルバムを作ろう	4 4 4
6月	わたしのできるしごと ・かぞくを紹介しよう ・かぞくの仕事しらべをしよう ・わたしのできる仕事をしよう	(10) 4 4 2			雨の日を楽しく ・雨具を作ろう ・雨の校庭で遊ぼう ・雨の日のたんけんをしよう	(10) 5 3 2
7月	ダムをつくろう ・土や砂で遊ぼう ・ダムたんけんにいこう ・ダムをつくろう ・楽しく遊ぼう	(10) 2 1 5 2			お店やさんごっこ ・バスに乗って町探険にいこう ・お店やさん探険をしよう ・お店やさんごっこをしよう	(10) 3 2 5
8月	・木の葉や木の実で遊ぼう	5	秋とともだち ・秋をさがそう	(20)	・バスで分校にいこう	5
9月	・◇◇ランドを作ろう ・思いでを残そう	9 2			・草木ぞめをして遊ぼう ・やさいも大会をしよう	6 5
10月	上郷小郵便局 ・押し花ゆうびんを出そう ・郵便局を見学しよう ・上郷小郵便局を開こう ・郵便すごろくを作って遊ぼう	(15) 2 4 6 3			おもちゃ大行進 (15) ・動くおもちゃを作ろう ・祖父母といっしょに昔のおもちゃをつくろう ・おもちゃオリンピックを開こう	(15) 6 7 2
11月			冬とともだち ・冬を見つけよう ・白鳥にえづけをしよう ・冬の遊びをしよう	(15) 2 5 5	・おさいとうをしよう	3
12月	・だんご木をかざろう	3				
1月			大きくなったわたし ・もうすぐ 2 年生 ・もうすぐ 3 年生	(11) 4	・思いですごろくを作ろう ・ありがとうパーティをしよう	4 3
2月	・わたしのものがたりを作ろう ・1 年生を迎えるしごとをしよう	4 3				

単元と内容選択の視点との関連表（遊佐町立吹浦小学校 1 年）

第一学年の内容

- (1) 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のが分かり、学校において楽しく遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子などについて調べ、安全な登下校ができるようにする。
- (2) 家庭生活を支えている家族の仕事や家族の一員として自分でしなければならないことが分かり、自分の役割を積極的に果たすとともに健康に気を付けて生活することができるようにする。
- (3) 近所の公園などの公共施設はみんなのものであることが分かり、それを大切に利用することができるようにするとともに、身近な自然を観察し季節の変化に気づき、それに合わせて生活することができるようにする。
- (4) 土、砂などで遊んだり、草花や木の実など身近にあるもので遊びに使うものを作ったりして、みんなで遊びを工夫することができるようにする。
- (5) 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらも自分達と同じように生命をもっていることに気づき、生き物への親しみをもちそれを大切にすることができるようにする。
- (6) 入学してから自分のできるようになったことや日常生活での自分の役割が増えたことなどが分かり、意欲的に生活することができるようにする。

単元名	小単元名 (時数)	第1学年の内容	内容選択の視点									
			1 健康で安全な生活	2 身近な人々との接し方	3 公共物の利用	4 生活と消費	5 情報の伝達	6 身近な自然とのふれあい	7 季節の変化と生活	8 物の製作	9 自分の成長	10 基本的な生活習慣・技能
1. はじめまして吹浦小学校	①ともだちつくりよう (3)	1	○	○	○		○					
	②学校探検をしよう (7)	1	○	○	○		○					
	③学校の外を探検しよう (5)	1	○		○		○	○	○			
2. わたしの花を育てよう	①花の種をまこう (3)	5		○				○	○			
	②どんなに大きくなったかな (5)	5						○	○			
	③きれいな花がさいたよ (4)	45						○	○	○		
	④花いっぱいになあれ (2)	5		○			○	○	○			
	⑤春の花の球根を植えよう (2)	5						○	○			
	⑥春をよぼう (1)	5						○	○			
3. 児童公園へ行こう	①児童公園には何がある？ (2)	3	○	○	○		○					
	②児童公園で遊ぼう (5)	3	○	○	○		○	○	○			
	③ようこそ池のなかまたち (3)	5						○	○			
4. 海で遊ぼう	①砂浜で遊ぼう (2)	34	○	○	○			○	○	○		
	②釜戸に行ってみよう (3)	3	○	○	○			○	○			
	③さよなら夏の海 (3)	34		○				○	○	○		
5. 秋をさがそう	①虫となかよし (3)	5						○	○			
	②秋をさがしに行こう (8)	3	○	○	○		○	○	○			
	③秋がいっぱい (5)	4				○		○	○			
6. おうちごっこをしよう	①家の人を紹介しよう (3)	2		○		○	○				○	
	②おてつだい大好き (3)	2		○		○					○	
	③おうちごっこをしよう (5)	2		○		○				○	○	
7. 冬を楽しもう	①冬の海を見に行こう (2)	3	○		○			○	○			
	②お正月の遊びを楽しもう (5)	4		○				○	○	○		
	③雪と遊ぼう (7)	34	○	○				○	○	○		
8. もうすぐ2年生	①こんなことができるようになったよ (7)	6						○			○	○
	②わたしはもうすぐ2年生 (4)	6						○				○

単元展開の事前調査と援助計画（朝日町立上郷小学校）

〈児童の様子（1年 男2名、女5名 2年 女1名 計8名）〉

1, 2年合わせて8名の複式学級である。これまでの生活科関連活動では、主に2年生のM子がリーダーシップをとってきた。本単元でもまとめ役としてのM子の活躍が期待される。1年生7名は、発達段階にも個人差が見られ、自分らしさをだせる子どもとそうでない子ども、個性的な考えのできる子どもとまだ模倣段階の子どもなど様々であるが、M子を慕い、M子の行動を見本にしようという動きはほぼ全員に見られる。

砂遊びに関しての事前調査の結果は次のようであった。

- すなばであそぶのはすきですか。
すき 6名 きらい 2名
- どうしてでしょう。
すき ・おもしろいから。なんでもつくられるから。・どうぐがいっぱいあるから。(保育園の砂場にはカラフルなバケツなどがある。)
きらい ・てやふくがよごれるから。・つめにすながはいるから。
- ほいくえんや1ねんせいとき、すなばでどんなものをつくったことがありますか。
- 1年 T男……どうろ
M男……とんねる、あなほり、うんちもろもろ
K子……やま、とんねる、ジュース、おべんとう、ぼうたおし、おだんご、あなほり、ありじごく
S子……やま、とんねる、ぼうたおし、みずながし
H子……やま、さか、ぼうる、とんねる、ぼうたおし、たてんぼう、みずながし、へび
A子……やま、とんねる、いけ
N子……とんねる、ぼうたおし、ありじごく、ぶりん
- 2年 M子……ダム、おしろ、やま、ぼうたおし、めいろ
○おおきいすなばで、どんなものをつくってみたいです。
- 1年 T男……せんろ
M男……どうろ、おにぎり
K子……やまのとんねる、ぼうたて
S子……おしろ、おむすび
H子……おおきいみずながし、たてんぼう
A子……いけでみずをながす
N子……ぶらんこ
- 2年 M子……おとしあな

つぎに、生活科では一人一人の実態に合わせた援助活動が必要であることから、活動の様子について簡単に述べる。

〈一年〉

S・T……生き物に興味があり、毎日のくらしの中でもよく虫などを捕まえている。言語的な面でやや遅れており、観察カードなどの表現活動となると思っていることを十分に言い表すことができない。やや自己中心的な行動が見られる。砂遊びなどでは、立体的な認識が浅いようである。

H・M……何事にも意欲的に取り組む姿が見られる。畑作りや草むしりなど作業的なことになると、途中であきてしまうことが多い。観察カードの絵や文も次第にいいねいに書けるようになってきている。男子2名はしばしば衝突するが、作業では協力する姿も見られる。本単元でも協力して作ることが予想される。二人のかかわり方を見ていきたい。

A・K……何事にも意欲的に、しかも最後まで諦めないで取り組む姿が見られる。1年生の中ではリーダー的な存在である。観察の中では彼女自身の独特な気づきもあり、カードなどの表現のしかたもいいねいである。自分らしさを出せる方であるが、2年生のM子と一緒にやりたいという気持ちもあり、最初の砂遊びでの行動を見ていきたい。

S・K……自分から進んで活動するというよりも、まわりの様子を伺いながらみんなに合わせて動こうとする方である。カイコを育てた時は、初め幼虫を触ることができず、何回も練習して小さなものをやっと触ることができるようになった。がんばりやである。砂遊びでは、まわりを伺ってからでないと行動できないことが予想される。少しでも自分らしさを出せるように働きかけていきたい。

S・H……何事にも真面目に取り組む、作業的なことでもすばやく仕上げてしまう方である。そのためか、観察や表現の仕方も大ざっぱであることが多く、対象物をじっくり見て鋭く気づくということがあまり見られない。砂遊びでも自分の作ったものを見つめ、さらに良くするにはどうすればよいかを考えさせていきたい。

N・A……物事を自分の中できちんと理解してから始めようとするせいか、作業的なことでは他の人より遅れをとってしまうことが多い。しかし、観察カードなどの表現活動では自分なりの方法で書く方であり、時として鋭い気づきをすることもある。遊びなどでは、他の児童の輪から離れてしまうこともあり、砂遊びでも、一人になることが予想される。自分らしさを出そうとこだわりを持つ方である。砂遊びで行動も注目して、彼女らしさをうまく引き出せるように働きかけていきたい。

M・N……文字を読んだり書いたりすることが得意で、観察カードなどでは思っていることを素直に表現することができる。ややあきっぽいところがあり、畑仕事などではいたずらをしてしまうことが多かった。自分の意見には固執する方で、しばしば男子とも対立する。砂遊びでも活発に行動することが期待される。落ち着いてじっくり作れるようにさせたい。

<2年>

S・M……常にリーダー的な存在で、1年生の面倒も非常によく見ている。自分に与えられた仕事に対しては真面目で、観察カードなどの表現活動でも、そつなく書くことができる。しかしながら、自分から進んでやろうとする意欲や、観察などでの鋭い気づき、創意工夫などの面ではまだであり、今後の成長を期待したい。砂遊びでもみんなの中心となって動くことが予想される。彼女らしさが思いきり出せるように、働きかけていきたい。

第2学年 単元の展開計画（米沢市立西部小学校）

単元名 ぼくらの町のりんごたち(1)

単元のねらい

- (1) 友達と協力しながら探検活動を行ったり、選果場の見学を通して、地域に対する関心を深めることができる。
- (2) 探検や見学で気付いたことを地図や新聞にまとめたり、ジャム作りをしながら、調理する楽しさを味わうことができる。
- (3) 季節によって自分達の様子が変化することに気付き、りんごの産地であることを実感することができる。

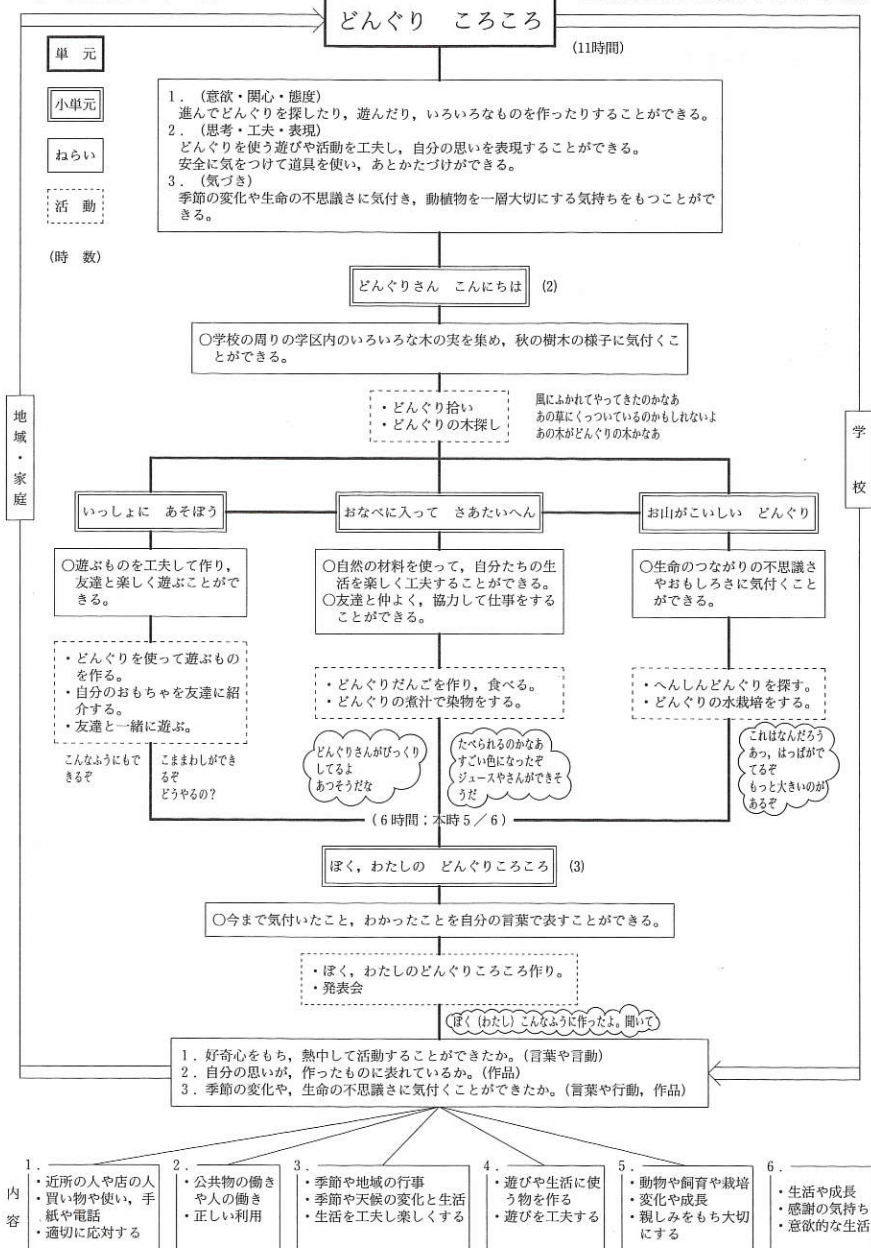
小 単 元	小単元のねらい	展 開 計 画	展開の留意点	教材・教具	評 価 の 観 点
秋の西部地区探検に出かけよう(4)	・ 班の約束を守りながら意欲的に探検することができる。 ・ 自分の発見を発表し、地図に表すことができる。 ・ 地域の秋の様子に気付くことができる。	①探検の計画をたてよう。 ②③探検にでかけよう。 ④自分の発見をみんなに知らせよう。	①どんなことから秋がわかるかを確認した上で、探検コースを決める。 ②③選果場の前を通るようにコースを設定する。 ④りんごの木が多いことに注目させる。	探検計画カード 探検コースの地図発見カード 大生活科マップ	①話し合って計画をたてることができたか。 ②③助け合いながらきまりを守って行動できたか。 ④地図に自分の発見を付け加えることができたか。
くだもの工場秘密(3)	・ じぶんでメモをとりながら、見学することができる。 ・ 気付いたことを新聞にまとめることができる。 ・ 選果場のあるわけに気付くことができる。	①くだもの工場へ見学に行こう ②りんご畑を見学する ③探検新聞を書こう	①選果場への不思議をとりあげる。 ②はねりんごを一人1個もらって来るようにしておく。 ③みんなに知らせたいことを書くようにさせる。	新聞の用紙	①興味をもって見学できたか。 ②選果場のあるわけに気付いたか。 ③自分だけの新聞を書けたか。
りんごでジャムを作ろう(4)	・ 班で協力することができる。 ・ 調理の楽しさを味わうことができる。 ・ 自分にも調理できることに気付くことができる。	①ジャム作りの計画をたてよう。 ②ジャム作りの準備をしよう(下ごしらえとビンのラベル作り) ③④ジャムを作ろう。	①班ごとに記入させる。 ②りんごの皮むきのできない児童には、援助していく。 ③④ガス台は教師が火をつけるようにする。 ・ 家庭科室を使用する。	計画カード りんご・タオル ナイフ・砂糖 エプロン・ビン	①話し合って計画をたてたか。 ②自分の力で皮むきに挑戦したか。 ③④楽しく安全に気をつけて調理し、自分にもできることに気付いたか。

※必要な施設・設備・留意事項等

- ・ 探検の際は、教師が前後につき、その間での班活動とし、交通ルールなどの安全指導を行う。
- ・ 探検コースは、館山と矢来方面の2コースとした。(安全を考えて)
- ・ 選果場へは事前に協力を依頼する。はねりんごは、直接農家から購入したほうが安いのでは。ジャムには、紅玉がベスト。
- ・ ジャムの作り方やナイフの使い方については、指導を要する。
- ・ 思っている以上に児童は皮むきが上手にできる。(個人差は大きい)

単元構想図（2年）

（尾花沢市立福原中部小学校）



学習指導過程 その

(1) 目標

これまでの砂遊びで

(2) 展開〈90分〉

時間	学 習 意 点	評 価
5分	1. 今日の活動の 〈自分との気づき〉	い服装になってい ベル、じょうろ、 反、雨とい、ホース、 ヤベル
75分	2. 道具や水を 動に移せない子ど りたいたいダムを いながら作る。 3. 友だちが作 に見合う。 〈友との気づき〉	動に移せない子ど 緒に作ろうと誘い になって作り、子 をできるかぎり引 く。 付かせたいことを 子どもには、意図 声で援助する。 まくいかない子ど まく作った子ども 見せ、ヒントにし ろができた子ども できていない友だ を手つたわせる。 の合意のもとに流 たい。 〈観察〉 ・自分の作りたいところを意識 して作り始めているか。 ・熱中して作っているか。 ・友だちと教えあったり、助け あったりしているか。 ・まわりの子どもに気を配って いるか。 (2年)
10分	4. 出きあがり んぱったとこ 〈自分を見つ めよう〉 場の舟を思い出さ (2年)	挙手 ・進んで挙手できたか。 発表 ・みんなに分かる声で発表でき たか。

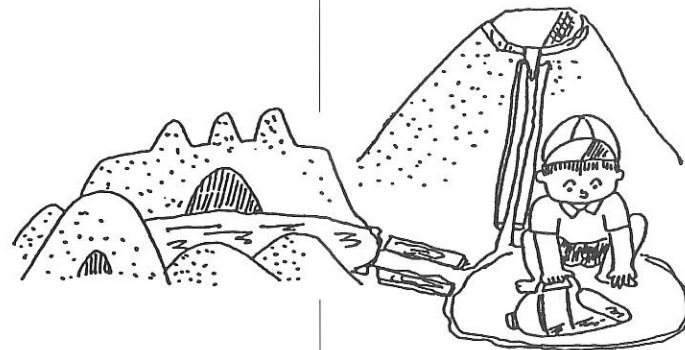
学習指導過程 その1 (朝日町立上郷小学校)

(1) 目標

これまでの砂遊びでの経験を生かし、自分たちで考えた図をもとに、友だちとかかわりあいながら楽しくダムを作ることができる。

(2) 展開 (90分)

時間	学 習 活 動	教師の働きかけ	児 童 の 反 応	留 意 点	評 価
5分	1. 今日の活動の見通しを持つ。 〈自分との気づき〉 (一斉)	○みんな今日こそ成功しそうだね。自分がどこから作るか分かるかな。 ○みんなやる気満々だね。作る時は、いつもの約束を守ろうね。 ・友だちにめいわくをかけない。 ・道具は順番に使う。 ・音楽が流れたら片付けは始める。	・山の水をためるところをほります。 ・ダムの底にざらざら山の土をしきます。 ・川を固めます。 など。	・汚れてもいい服装になっている。 準備 手作りシャベル、じょうろ、ビニール、板、雨とい、ホース、バケツ、シャベル	〈態度〉 ・作る意欲を持ち、教師の話をしっかり聞いているか。
75分	2. 道具や水を使い、自分たちの作りたいダムを友だちとかかわりあいながら作る。 (個)	○それじゃあ、自分たちの考えているダムを思いきり作りましょう。	・よし、がんばるぞ。 ・うまくできるといいな。 ・誰かと一緒に作りたいな。	・なかなか行動に移せない子どもには、一緒に作ろうと誘いかける。 ・教師も一緒になって作り、子どもの思いをできるかぎり引き出していく。 ・みんなに気付かせたいことをやっている子どもには、意図して大きな声で援助する。 ・なかなかうまくいかない子どもには、うまく作った子どものところを見せ、ヒントにしたい。 ・自分のところができた子どもには、まだできていない友だちのところを手つだわせる。 ・水はみんなの合意のもとに流すようにしたい。	〈観察〉 ・自分の作りたいところを意識して作り始めているか。 〈観察〉 ・熱中して作っているか。 ・友だちと教えあったり、助けあったりしているか。 ・まわりの子どもに気を配っているか。 (2年)
	3. 友だちが作ったところをお互いに見合う。 〈友との気づき〉 (一斉)	○△△さんのところ、よくできたね。 ○ここは、どうやって作ったの。	・水を流すよ。1. 2. 3…… ・やったあ。ダムに水がたまったぞ。 ・川ができたよ。 ・やっと、つながったよ。成功だ。		〈観察〉 ・体全体で喜びを表しているか。
10分	4. 出きあがりをみんなで喜び、がんばったところを発表し合う。 〈自分を見つめる〉 (一斉) 〈地域とのかかわり〉	○うまくできたね。今日、自分が一番がんばったところを発表しよう。 ○せっかく作ったダムをどうしようか。 ○ダムで、どんな遊びができるかな。 ○この次は、出きあがったダムで、くふうして遊ぼうね。	・ダムの底にビニールを敷いたところです。 ・トンネルをたくさんほったことです。 ・水がうまく流れるように、坂道にしたところです。 ・そのまま残しておきたい。 ・舟を浮かべる。 ・何かを流す。	・できたものを実際に見せながら発表させる。 ・ボート練習場の舟を思い出させたい。 (2年)	挙手 ・進んで挙手できたか。 発表 ・みんなに分かる声で発表できたか。



授業実践のまとめ（朝日町立上郷小学校1・2年複式学級）

① 主題「豊かな体験を生かす」にかかわって

- この時間に豊かな体験をさせるための方法として、次のことを考えた。それは、「よりよいものを子どもたちに考えさせるために、困った状況を意図的に作ってやる。」ということであった。活動過程では、川砂と山砂（粘土質）という質の異なる2種類の砂で子どもなりのダムを作っている時、「山砂の方で作ったダムには水がたまるんだけど、川砂の方にはたまらないよ。」という困った状況に子どもたちはぶつかった。そこで、子どもたちは「だったらどうしたらよいだろうか。」と試行錯誤しながら考えた。その結果、自分の考えを友だちと確かめ合いながらビニールを敷いたり、雨どいを使用したりして子どもたちの思考が次第に高まっていく場面を見ることができた。だれ一人としてぼんやりとしている子どもはおらず、終始いきいきと活動していた。ダムを自分たちで考えながらつくったということに子ども自身、満足感を感じていたようである。
- ダムをつくるという自由な遊びの中で、友だちどうしお互い助け合ったり、見せ合ったりする様子がみられた。そうしたかかわり合いの中で、もっとよいもの、楽しいものを工夫していく姿が見られた。

② 副題「地域の特性を生かす」にかかわって

- 地域にある上郷ダムを意識し、それに似たようなものを作ろうとする中でイメージがふくらみ、グループで楽しく作ろうとする気持ちが高まった。ダムという素材に気付くことで、全員の心が一つになり、共同の作業を進めるようになった。
子どもの生活圏にある素材に気付かせ、それを取り入れることは興味関心を高め、活動をより豊かなもの、質の高いものにすることがわかった。
- 上郷ダムに実際浮かんでいる舟にも気付き、自分たちで作ったダムにも舟を浮かばせる活動に発展した。

③ その他

- 個と集団を積極的にかかわらせることにより、子どもたちの思考がしだいに高まっていくことがわかった。また、ある種のつまづきに出会った時に子どもが悩み、あれこれと考えを巡らしたことから、今後も意図的に困った状況をつくり、問題を解決させるという課題解決型の活動を仕組んでいきたい。
- 子どもの考え方や行動がどのように深まり、広がっていったのかを確認するために指導過程の中に評価の観点と方法を明示し、その記録を次時に生かすようにしている。評価の方法については今後さらに研究を深めていきたい。

学習指導過程その2 (遊佐町立吹浦小学校 1年)

(1) 小単元名 釜磯に行ってみよう(本時2, 3/3)

(3) 展開

主な活動	○ 教師の働きかけ(発問も含む) ● 児童の意識や予想される反応
1 本時の学習内容を確認する。 (5分)	○釜磯に着いたら何をして遊びますか。 ●カニをいっぱいつぞ ●魚をつりたいなあ。 ●湧水で実験するよ。 ●海草を拾ってままごとをします。 ●岩場に基地を作るよ。
2 釜磯海水浴場に歩いていく。 (25分)	○安全に気を付けて釜磯に行きましょう。 ●海が見えたよ。 ●ここにきたことあるぞ。
3 海で思い思いの遊びをする。 (40分)	●砂を掘って、川やトンネルを作ろう。 葉っぱの船を浮かべよう。 ●どろんこ遊びをしよう。 ●貝殻が落ちてる。拾ってままごとに使おう。海草や花も入れるとおもしろそうだ。 ●この岩の陰にカニがいそう。どうやってつろうかな。 ●湧水があるぞ。飲んでみよう。 ●岩に登ってみよう。 ○グループのみんなは、どんなおもしろいことをしているかな。 ●☆☆君のやっていることはおもしろそうだ。ほくもやってみよう。 ○後始末をしましょう。
4 学校に帰り、反省カードを書く。 (30分)	○安全に気を付けて学校に帰りましょう。早く着いたグループは、反省カードを書いていてね。

(2) 目標 ○海の生き物や植物を集めたり、砂や海水などを利用したりして、海の自然に親しみ、仲よく楽しく遊ぶことができる

○ 指導上配慮すること ・ 活動(学習)の素材	○評価の観点	○評価の方法
濡れてもいいように、水着の上に体育着を重ねさせておき、タオルを持たせる。	○釜磯での遊びに意欲をもっているか。	○挙手 ○観察
○釜磯までの道順をよく知っている子どものいるグループを先頭に、グループごとに並んで歩くようにさせる。	○交通ルールを守って歩行できたか。	○観察
○計画外の活動にも柔軟に対応する。 ○海にはいることも予想されるが、安全を確かめて入れさせる。その場合、行って悪い場所の確認をする。 ○ひとりで遊んでいる子ども、活動できない子どもがいたら、様子を見ながら教師も一緒に遊んでやり、徐々に友達とも遊べるようにしていく。 ○おもしろい発見をした子どもや工夫した遊びをしている子どもがいたら、まわりの子どもに紹介し、活動が広がっていくようにする。 ○グループごとに集めて、各自の活動の様子を教え合うようにする。 ・ 砂浜、海水、湧水、砂鉄、貝殻、石、カニ、ヤドカリ、海草 ○後始末にはいる時刻を予告しておく。また、時計を持っていき、目に触れやすい場所においておく。	○友達となかよく遊んでいるか。 ○海の生き物や自然物のおもしろさに気づき、喜んで接しているか。	○観察 ○反省カード
○後始末の済んだグループから帰らせるようにする。	○友達の選びの良さに気付いたり、自分の遊びについて友達に伝えたりできたか。 ○しっかり片付けられたか。	○観察 ○反省カード ○観察

学習指導過程その3 (遊佐町立吹浦小学校2年)

- (1) 小単元名 十六羅漢や釜磯を探索しよう。
 (2) 目 標 十六羅漢をスケッチしたり、釜磯でプレゼント作りに必要なものを探したりする
 (3) 展 開

主 な 活 動 (100分)	○ 教師の働きかけ (発問も含む) ● 児童の意識や予想される反応
1.十六羅漢まで歩いていく (12分) ・グループごと (4～5人) で歩く ・道路の右側を歩く ・会った人に挨拶をする	○ 安全に気をつけて歩きましょう。 ● 車に気をつけて、グループごとにまとまって歩きます。
2.十六羅漢でスケッチする (10分)	○ 十六羅漢を後で絵にかきますのでしっかりスケッチしましょう。 ● 絵を上手にかきたいのでスケッチをきちんとかいておこう。
3.十六羅漢から釜磯まで歩く (15分)	○ 日本海はとうですか。飛鳥は見えますか。 ● 日本海は広くてきれいだな。飛鳥も見えるよ。
4.釜磯の砂浜や磯辺で遊びながらプレゼント作りに必要なものを探す (30分)	○ 山の子どもたちへ送るプレゼントを作るための材料を拾いましょう。 ● すてきなプレゼントを作るために、いろいろなものを拾うぞ。 ○ 釜磯の砂にじしゃくを近づけてみましょう。 ● 砂がじしゃくにくっついた。すごいな。 ● 海底の砂はとうかな。 ○ どんなプレゼントを拾ったかな。 ・まき貝 ・二枚貝 ・サザエ ・カニ ・海草 ・流木 ・きれいな石 など
5.釜磯から学校まで帰る (30分) ・グループごと (4～5人) で歩く	○ 車に気をつけて帰りましょう。 国道や踏み切りの横断に気をつけて。
6.校庭で話を聞く (3分)	○ きょう拾ってきたものをプレゼント作りに使いましょう。スケッチも絵をかくときに使いますね、机の中にせいとんしておきましょう。

ことができる。

○指導上配慮すること ・活動 (学習) の素材	○評 価 の 観 点 (方法)
○ 車の往来には十分気を付けて歩くよう全員に徹底する。 (学校～鳥海ブルーライン～羅漢駐車場～七号線の上の歩道橋～十六羅漢)	○ 交通ルールを守って歩行できたか。(観察) ○ 会った人に挨拶することができたか。(観察)
○ 岩場に彫られた羅漢様を中心にスケッチさせる。 ○ 何をかいたらいいかわからない子どもには相談にのってやる。	○ スケッチをきちんと描いているか。(スケッチの点検)
○ 山の子どもたちへの手紙を書く思いを高めさせ、日本海の様子を知らせることができるようによく観察させる。	○ 日本海の様子をよく観察できたか。(観察)
○ 海に入ることも予想されるので、その場合は安全を確かめて許可し、教師も入ってひざぐらいの深さの範囲を囲む。 ・まき貝 ・二枚貝 ・サザエ ・カニ ・海草 ・流木 ・きれいな石 など ○ トイレには随時行くように指示する。 ○ 一人に1本ずつ磁石を持たせ実験させる。 ・磁石 ・砂鉄 ○ おもしろい遊びをしている子どもがいたらまわりの子どもにも紹介して活動が膨らむようする。 ・わき水遊び ・岩登り ・秘密基地 ・海草採り ・波遊び ・砂掘り ・貝拾い ・ヤドカリやカニ探し ○ 安全に気をつけて帰るよう全体指導をする。 (釜磯～国道～踏み切り～南光坊坂～学校)	○ プレゼント作りに必要なものをイメージしながら拾うことができたか。(拾ったものの点検) ○ 磁石で砂の磁力を確かめられたか。(実験の様子)
○ プレゼント作りの素材やスケッチはきちんと保管させる。	○ 楽しく遊びを工夫しているか。(観察) ○ 交通ルールを守って歩行できたか。(観察) ○ 草花や松林の様子をよく観察できたか。(観察) ○ プレゼント作りの素材やスケッチをきちんと保管できたか。(観察)

授業実践のまとめ（遊佐町立吹浦小学校1・2年）

① 主題「豊かな体験を生かす」にかかわって

- 地域の海に住む生き物に直接触れ、その様子を驚き、海岸で遊ぶ楽しさと喜びを味わった。
- 山の子どもにプレゼントをするという願いが本時や単元の活動の支えとなり、自主的に計画し活動することができるようになった。
- 広い海岸での活動は教師一人では全体に目とどかず、安全面の対応が難しい。活動場所を制限したり、活動内容の許容範囲を押さえておくべきだった。また、保護者や地域の協力を要請するようにしたい。
- 活動の途中で本時のねらいからそれた新たな発想をしたり、子どもの興味・関心、意識が変わったりしたとき、どのように対応したらいいか戸惑った。事前調査や予想、予測を十分にすることがある。
- 子どもの興味・関心や意識の変化に即して、一人で活動したり、グループをつくって活動したり、全体で活動する場面を柔軟に組み込んで授業を展開していく援助・指導の在り方を工夫する。
- 子どもの活動や体験を広げ、自らが豊かな活動や体験を生み出していくような生活科を展開するには、まず教師自身の豊かな発想や体験が大事である。

② 副題「地域の特性を生かす」にかかわって

- 身近な海やそこに住む生き物、周辺の地域の様子、人々などに対する関心が高まり、事後の学校行事や校外での生活においても進んでかかわる姿が見られるようになった。例えば、これまでいやだった海藻や小動物にさわったり、あるいは近所や地域の人々とことばを交わすようになった。
- 地域の環境については子どもたちが意外に知っており、子どもたちから教えられることがたくさんあり、一緒にマップを作って、教室に掲示した。このような子どもの実態を把握し、活動に生かしていくことが大事である。
- 子どもにとって地域の海は大きな魅力があるので、海に行く回数を増やして、多面的に海にかかわる活動をさせたい。その際、活動の目的をしっかりとつことが大事である。
- 教師は地域素材を開発し、教材としての価値や活動のねらいなどを分析して環境マトリックスなどにまとめておくようにしたい。

③ その他全般にかかわって

- どのような活動内容のとき、全体に気付かせ、共有化を図るか、あるいはその必要がないかなど生活科の部会で十分検討したい。
- 小集団による学習活動を進めていく場合、子どものもつリーダーシップをどんな場面に、どんな形で、どのように発揮させていくかを考え、今後の活動に生かしていきたい。
生活科の授業におけるリーダーの必要性や役割については検討課題である。

学習指導過程 その4

- (1) ねらい ○ 進んで裏山
○ 自分たちが

- (2) 展開のポイント 前時におは、その約束やきまりを守りながら、活動の楽しさを十分に与えられる。また、見つけた場所には、目印に旗を立てるよう。

(3) 展 開

活 動	教 師 の 手 だ て
1. 今日探したいものを発表す	・ 裏山での活動の前に、安全について注意する。(ハチ、危険箇所、クリのいが)
2. むしむしはなはなだいさく	・ 活動の約束を確かめる。 ①虫でも花でもよい。 ②見つけた場所に目印をたてる。 (虫は黄色、花はピンク) ③初めて見つけた人がネーミングする。
3. 虫や花を探す。	・ 自分が見つけたものと、友達が見つけたものをじっくり比べてみるようにさせる。 ・ 子どもたちが見つけた新しい種類の虫や花は、一定の場所において、いつでも見られるようにする。 個；W.Kが活動のなかに入りきれずにいるときは、誘いかけの言葉をかける。
4. 自分が見つけた虫や花を紹介	・ 自分が見つけた虫や花の名前と見つけた場所を紹介し合う。 ・ 見つけた場所を発表し合い、見つけた喜びを味わわせる。

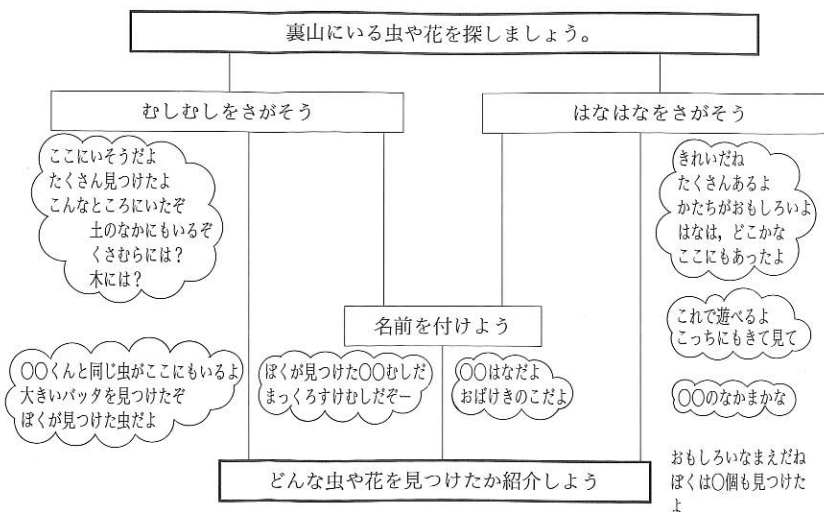
- (4) 評 価 進んで花や虫を
約束やきまりを

学習指導過程 その4 (尾花沢市立福原中部小学校1年)

- (1) ねらい
- 進んで裏山の虫や草花を探したり、捕まえたり、名前を付けたりすることができる。
 - 自分たちが決めた約束やきまりを守って活動を楽しむことができる。
- (2) 展開のポイント
- 前時において、子どもたちは秋の裏山にいる虫や草花を探そうという意欲をもち、その活動のための自分たちの約束やきまりを決める。本時では、その約束やきまりを守りながら、活動の楽しさを十分味わわせたい。子どもの興味に基づき、虫と花のどちらを探す活動でもよいものとし、虫や花の第一発見者には、ネーミングの権利が与えられる。また、見つけた場所には、目印に旗を立てるようにする。友達と同じものを他の所で見つけた場合は、先に見つけた人が付けた名前を書いて、見つけた場所に目印を立てるようにする。

(3) 展 開

活 動 内 容	時間	期 待 す る こ の 姿	教 師 の 手 だ て
1. 今日探したいものを発表する。	5分		
2. むしむしはなはなだいさくせんの約束を確認める。	45分		
3. 虫や花を探す。			
4. 自分が見つけた虫や花を紹介する。	10分		



- (4) 評 価
- 進んで花や虫を探すことができたか。(言葉・行動)
- 約束やきまりを守って活動することができたか。(行動)

学習指導過程 その5 (尾花沢市立福原中部小学校2年)

(1) ねらい

○自分たちの集めたどんぐりを使って、自分が興味をもった活動に熱中して取り組むことができる。

(2) 展開のポイント

子どもたちはどんぐり拾いをするうちに、「ぼく(わたし)は、〇〇したい。」という願いをもつようになる。本時では、子どもたちの興味から、遊ぶものを作るグループ、だんご作りや染物作りなどをするグループ、へんしんだんぐりを探すグループに分かれ、子どもたちの自由な意志を発揮させ、活動に取り組ませたい。この時のグループは固定的なものではなく流動的なものとし、時間的な余裕があれば、他の活動にも参加できるようにしていきたい。

(3) 展開

活動内容	時間	期待する子どもの姿	教師の手立て
1. 本時で自分たちがやろうとしていることを発表する。	5分		今日の活動の見通しをもたせる。
2. グループごとにどんぐりを使って活動する。	40分	どんぐり ころころの たび いっしょに遊ぼう - あそぶものを作る。 - 何を作ろうかな。先がとがっているな。〇〇を作ろう。 - もっとどんぐりをひろってこよう。 - お山がこいしいどんぐり - 友達に自分が作ったものを紹介する。 - こんなのを作ったよ。 - わたしも作りたいな。どうやるの。 - 友達と一緒に遊ぶ。 - きょうそうするとおもしろいよ。 - クイズを作ろうか。 - 新しいものを考える。 - へんしんだんぐりを探す。 - こんなどんぐりがあったよ。これは何だろう。何になるのかな。 おなべに入ってさあたいへん どんぐりだんご作り - どんぐりだんご作りの手順を確認する。 - どんぐりを煮る。 - すごい色だね。何かできないかな。 - どんぐりの皮をむき、つぶす。 - やわらかくなってきたぞ。 - だんごを作る。 - 次は〇〇を入れるんだぞ。 - わたしの次は〇〇ちゃんして。 - 食べる。 - 友達に食べさせよう。 - どんぐりの煮汁で遊ぶ。 - 染物を手順を確認する。 - 煮汁を使って染物をする。 - どんな色になるのかな。うわあこんな色になった。	- グループは前時に活動したグループと同じとする。 - 活動場所が屋内と屋外に分かれるので、活動終了時刻を約束する。 - グループを回り、遊びの助言や安全面での注意を行う。おもちゃ作り；くし、安全ピン、カッター等の扱い方。山で；ハチにであった時、さされた時の注意。火を扱う時；火の取り扱い方、やけどの注意。 - 活動の中での一人一人の表情、つぶやきを認め、はげましの言葉をかける。個；H. S や S. M が活動の中に入りきれずにいる時は、さそいかけの言葉をかける。 - 活動時間に余裕ができたグループの子どもがいたら、他のグループの活動に参加するように声をかける。 - うまくできたことや工夫したことを発表しあい、満足感を味わわせる。
3. 活動後の感想や今度やりたいことを発表する。	15分		

(4) 評価

○自分で決めた活動に、熱中して取り組むことができたか。(言葉や行動)

○各グループごと いっしょにあそぼう；遊ぶものを工夫して作り、友達と楽しく遊ぶことができたか。(作品、言葉や行動)

授業実践のまとめ（尾花沢市立福原中部小学校 1， 2 年）

① 主題「豊かな体験を生かす」にかかわって

＜1 年＞

- 子どもたちの興味・関心から出発した活動内容だったので、子どもたちは林の中や草むらの中まで広範囲にわたって自由にのびのびと活動した。また、自分なりのこだわりをもって、ユニークな名前をつけたことで、見つけた虫や花に親しみをもったようである。
- 虫や花を見つけたら、指定した場所に持ってきて、友達の見つけたものと「比べて名前をつける」活動を設けた。教師はその場所に待機したことは、ネーミング活動を援助するのに都合がよかった。

＜2 年＞

- 子どもたちそれぞれのどんぐりに対するこだわりを追求するために、おもちゃ作りとだんご作りという複線型の活動をしたので、子どもたちは一人一人熱中して取り組むことができた。
- おもちゃ作りでは、どんぐりに穴をあける方法や道具の使い方を子どもたち同士で教え合い、協力する場面が見られ、簡単な遊び道具から、より工夫したものを作り、作ったおもちゃで遊ぶ活動へと発展していった。
- だんご作りは、「どんぐりだんごを食べてみたい」という子どもたちの欲求に基づいた活動のため、協力しながら楽しそうに取り組む、でき上がっただんごを全員で満足そうに試食をした。
- 本時のような複線型の活動をした場合、教師のかかわり方に差が出てくる。今回はだんご作りが火を使うということもありかかわりが多くなった。安全面の指導や子どもの活動の様子を把握する方法などを今後検討していきたい。

② 副題「地域の特性を生かす」にかかわって

＜1 年＞

- 学校の裏山は、子どもが活動するのに十分な広さがあり、危険性も少ない。おもいきり自然とのかかわりをもつことのできる環境である。この環境での活動を通して、虫や花に接し、季節の変化にも気付くことができた。虫にさわれなかった子どももさわれるようになり、また、休み時間や放課後になると外に出て、虫探しをする子どもが増えてきた。

＜2 年＞

- 子どもたちが普段、慣れ親しんでいる学校の裏山のどんぐりを扱った活動だったので、意欲的に取り組むことができた。落ちているどんぐりを拾うだけでなく、木についているどんぐりを探せる子や、地面に落ちたどんぐりの変化を予想できる子どもも増えてきた。

③ その他

- 「興味をもつ」「体験活動をする」「表現する」という活動過程を組み、子どもの多様な発想を生かした活動を考えた。
- まとめの活動では、気付きの共有化や一人一人が満足感を得られるような発表方法などの工夫が必要である。また、他教科とも関連させて豊かな表現力を養っていきたい。

学習指導過程その6（米沢市立西部小学校2年）

(1) 自分の力でりんごの皮むきに挑戦し、班で力を合わせながらジャム作りの準備に取り組むこと

(2) 展 開

時間	主な活動	○教師の働きかけ ●児童の反応
0	1. 本時の学習の見通しをもつ。	○今日はジャム作りの準備をしましょう。 1. りんごを洗う 2. 皮をむく 3. 四つに切って、種をとる（援助する） 4. 小さく切る 5. なべに入れる 6. ナイフをかたづける 7. 砂糖をまぜてふたをする
	2. りんごの皮むきの演示を見て、注意を聞く。	○りんごの皮むきを演示し、注意事項を伝える。 ●簡単そうだな。 ●早くやってみたい。 ●僕にできるのかな。
10	3. ジャム作りの下ごしらえをする。	○用意ができたなら始めましょう。 ●やっぱり難しいよ。 ●指を切りそうで怖いな。 ●僕にもできたよ。
20		○皮をむいた人は、りんごを持ってきてください。 ●早く切って、友だちを手伝ってやろう。 ●自分の力でがんばるぞ。
30		●全員切り終ったから、ナイフをかたづけよう。 ●砂糖をまぜればいいんだな。 ●うまくできるのかな。 ●明日が楽しみだ。
40	4. 後片付けをする。	○後片付けを始めましょう。
45	5. 活動を振り返る	○自分でがんばってやったと思う人は手をあげてみましょう。

ができる。

○指導上の留意点 ・準備	評価の観点
○作業の手順をカードに書いておく（黒板掲示） ○全員終わった班は、ラベル作りをしてもいいことを知らせておく。 ○四つに切るのは力があるので、援助するのを忘れないようにする。 ○ナイフを洗うのは、危険なので簡単にさせる。 ○親指を動かしてからナイフを動かすように指示する。 （親指→ナイフの順） ・りんご ・ナイフ ・タオル ・なべ ・へら ・エプロン ○ナイフの使い方が間違っていないかを机間指導する。 （教師が準備するもの） ・りんご一人に1個 ・なべ 班に二つ ・砂糖 （児童が準備するもの） ・ナイフ ・タオル ・へら ・班できめたもの	しっかり話を聞くことができたか。 （行動観察） 約束を守り、順序よく作業しているか。 （行動観察） 自分なりに努力してりんごの皮をむこうとしているか。 （行動観察） （作品分析）
○上手にできる児童にだけ自分で切らせ、そのほかの児童は、班で手伝ってもらうか、教師が援助する。 ○班で教え合いながら作業を進めるように助言していく。	班の一員として協力し合っているか。 （行動観察）
○砂糖を量って、容器にいれておく。 ○なべに入れてふたをして、一日おく。 ○早く終わった班には、ラベル作りをさせる。 ○全員で後片付けをする。終わっていない時は、時間を延長する。	しっかり後片付けができたか。 （行動観察） （自己評価）

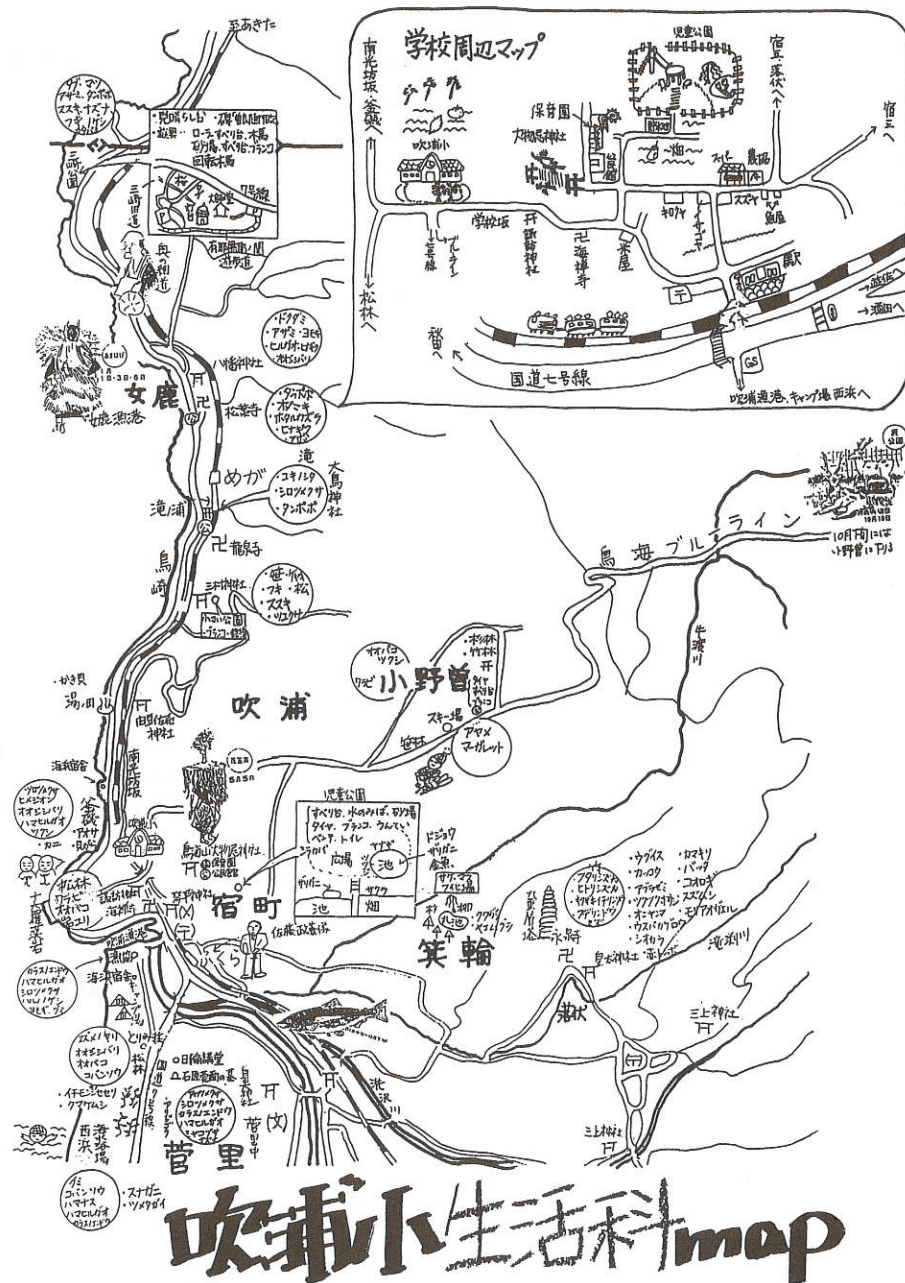
授業実践のまとめ（米沢市立西部小学校2年）

① 主題「豊かな体験や活動を生かす」にかかわって

- おいしいジャムをすることで成就感をもたせたかったので、この題材にした。果物ナイフでりんごの皮をむかせることは、子どもの発達段階から考えると難しいのでは、と予想されたが、幼稚園で果物ナイフを使わせていたこともあってか、時間差はあるものの全員が時間内に皮むきを終了しており、それ程危険はなかった。家庭では危ないということではやらせていないことが多いが、その後の子どもの変容を見ると、小さいうちに経験させておくことも大切なようである。もちろん、より安全を重視するならば、お母さん方に協力を依頼して班に一人ぐらいずつ付けてもらうことも考えられる。
- 危険をとまなうので、最初に果物ナイフを使うときの注意などを指導した。その後は、個人、あるいは班の活動になったが、子ども同士の協力する姿も随所に見られ、この場面での援助や助言はあまり必要ではなかった。
- 今回の学習活動は、子どもにも家庭にも評判がよかった。家庭に帰ってから、意欲的に母や姉にジャムの作り方を教えたり、家族の人にりんごの皮をむいてごちそうをしてほめられた、というような児童が多かった。学習したことを生活の中にさらに生かしていくような働きかけが、意欲をもたせるために大切なようである。
- 自分でできないと思っていたことができたので、自信をもっていろんなことに挑戦する意欲や態度がみられるようになった。
- 今回のジャム作りは、全員に同じ内容で取り組ませたが、一人一人意欲的に熱中して取り組んだ。活動そのものに魅力があればこのような形態でも楽しく有意義な活動・体験になるようである。
- 今回のジャム作りのような活動では、家庭科および幼稚園の教材との関連を図る必要がある。

② 副題「地域の特性を生かす」にかかわって

- 子どもの実態を調査して、それを考慮した単元構成にした。地域探検の時の「発見カード」や「個人新聞」を見ると、全員の児童が自分たちの住んでいる地域にりんごの木がたくさんあることに気づき、驚きを感じていたようである。これからも、教材の内容が偏らないように配慮しながら、四季折々の地域の様子を気付かせる活動を取り入れていきたい。
- 秋探検の一環として、子どもにとって一番目に付いた特産の「館山りんご」を使ってジャム作りを行った。楽しく活動できたようである。
- 地域の人々とかかわる機会が多くなるので、生活科への理解を得る努力をしていく必要がある。



生活科 暦（遊佐町立吹浦小学校）

月	地域の自然	子どもの遊び	地域、家庭の行事	学校行事	単元の構想
4	・ツクシ ・タンボロ ・チューリップ ・サクラ ・コバンソウ ・アオサ	・遊具遊び ・花摘み、つくしとり ・	・春の交通安全運動 ・1年生を迎える会 (各子ども会)	・入学式 ・身体計測、内科検診 ・交通教室 ・避難訓練	1年生 ○はじめまして吹浦小学校へ ●わたしたちの町のたんけん
5	・ヨモギ ・オオバコ ・ワラビ ・スミレ ・ヒメジョオン	・タニシ ・カエル ・ゼンマイ ・ザリガニ ・カタツムリ ・ワラジムシ	・虫つかみ ・ヒマワリ、アサガオのたねまき ・サツマイモの苗植え	・創立記念式 ・歯科検診など ・運動会練習 ・（こいのぼり集会） ・廃品回収	○わたしの花を育てよう ●おみせやさんたんけん ●やさしい、くだものを育てよう
6	・オオジシバリ ・アヤメ ・アジサイ	・テントウムシ ・カブトムシの幼虫 ・カメムシ ・ホッペ ・アブラゴ ・キス	・どろんこ遊び ・水遊び ・花火 ・ザリガニとり	・地区運動会（第1週） ・耳鼻科検診 ・地区運動会 ・相撲大会 ・プール開き ・クリーン作戦	○児童公園へ行こう ●雨の日も楽し ●水の中の生き物
7	・ハマヒルガオ ・シロツメクサ ・マリーゴールド ・キイチゴ	・セミ ・カキ ・オニヤンマ ・アブ ・アゲハ ・ハマダリ・アワビ	・貝拾い ・キイチゴつみ ・花火 ・つり	・（七夕集会） ・海浜訓練 ・避難訓練 ・終業式 ・夏休み	○海で遊ぼう ●吹浦の海をさぐる（パートI）
8	・ヒマワリ ・アサガオ ・オシロイバナ ・ベニバナ	・マツヨイグサ・カニ ・ツユクサ ・アザミ ・アオサ ・ワカメ ・カタノリ	・山登り ・海水浴 ・草花遊び	・子ども会キャンプ ・盆踊り ・水泳大会 ・校内清掃 ・運動会練習	●吹浦の海をさぐる（パートII） ●秋の虫と友達になろう
9	・ネコジャラシ ・ドングリ	・アキアカネ ・バッタ ・コオロギ ・カマキリ ・スズムシ	・木のみ拾い ・虫つかみ	・大運動会 ・クリーン作戦 ・音楽教室 ・（ありがとう集会）	●おまつりをしよう ○おうちごっこをしよう
10	・サツマイモ ・ススキ ・島海山の紅葉、山頂初冠雪	・サケの淵上 ・落ち葉集め ・ボールけり ・サツマイモの収穫 ・チューリップの球根、菜種の種蒔き	・政策祭（10/14） ・シカの角さきり（10/10）	・学会 ・歯科検診 ・避難訓練 ・廃品回収	○もうすぐ2年生
11		・サケの産卵	・なわとび	・吹浦公民館祭り（11/3前後） ・雪がこい	●ゆうびんやさんごっこをしよう ●吹浦の海をさぐる（パートIII）
12		・雪遊び	・冬至 ・もちつき ・すすはらい ・歳の市 ・大晦日	・（クリスマス集会） ・校内清掃 ・終業式 ・年末休み	●冬も楽しくすごそう
1	・カンダラ ・ヤリイカ	・正月の遊び	・初詣で ・出初め式 ・アマハグ ・五日堂（いつかど）	・年始休み ・書き初め大会 ・避難訓練 ・（かるたとり大会）	
2	・雪 ・吹	・カンダラ	・節分 ・大黒様		
3	・雪解け ・フキノトウ		・6年生を送る会（子ども会ごと）	・式練習 ・校内清掃 ・卒業式 ・修了式	●わたしの成長

評価資料（朝日町立上郷小学校）

児童の考え方や行動が1時間ごとどの、毎時間の観察記録を蓄積し、それをもとに次の「評価資料」を作成する。

A年度 単元No4 ダムをつくろう

評価項目 児童名	生活への関心・意欲		特記事項
	(1) 砂場作りで、草むしりやブロックつみを一生懸命行うことができたか。	(2) 自分なりのてをもつて的に砂遊びできたか。	
1年 S. T	△→○ 毎時間、めあてをもって活動する姿がみられなかった。	◎→◎→◎	めあてをもたせることにより意欲的にいきいきと活動できることがわかった。普段の授業ではみられない姿があった。
H. M	△→○ より楽しいこと、おもしろいことを行きていた。	◎→◎→◎	より面白いものへと食欲に向かう態度がみられた。友達のこと考え行動する姿もみられた。
A. K	◎→○ 自分の作りたいものにこだわるかに意識が向いていた。	○→◎→◎	2回目の砂遊びでいきいきとトンネルを作っていたのが印象的であった。自分の考えに自信をもっともたせたい。
S. K	△→○ トンネルが完成した時、とどいた。	○→◎→◎	最初は控えめに活動していたが2回目の砂遊びでは自分の作りたいものを作ることができ非常に満足気であった。
S. H	◎→◎ みんなと助け合い、大きな物を作った。	○→○→○	砂場作りの時一生懸命に草むしりをしていた。彼女なりの考えを表現しようとする場がなかった。
N. A	○→○ 自分の作りたいイメージをやら活動していた。	○→◎→◎	単元が進むにつれてしだいにいきいきとなっていた。生活経験から多くのことに気付いていたことに驚かされた。
M. N	△→○ 二つの山がつながった時、本	◎→◎→◎	活動する中で自分のやりたいことに気付きそれを実現させようと一生懸命がんばっていた。
2年 S. M	◎→◎ イメージ通りに作れないは一生懸命であった。	◎→◎→◎	ケンカして気落ちしている子どもに声をかけ仲間に入れてあげるなど上級生としての気遣いがしばしば見られた。

* 本単元は、同内容同程度の単元であるが、(式不十分)

評価資料（朝日町立上郷小学校）

児童の考え方や行動が1時間ごとどのように深まり、広がっていったのか、その中で児童がどんなことに気付いたり、疑問をもったりしたか等、児童の行動に視点を当て、毎時間の観察記録を蓄積し、それをもとに次の「評価資料」を作成する。

A年度 単元No.4 ダムをつくろう 観察・評価の記録

評価 項目 児童名	生活への関心・意欲・態度			活動や体験についての思考・表現			身近な環境や自分についての気付き			特記事項
	(1) 砂場作りで、草むしりやブロックつみを一生懸命行うことができたか。	(2) 自分なりのめあてをもって意欲的に砂遊びができたか。	(3) 友達と助け合い、教え合いながら活動できたか。	(1) 水を溜めるのにどうすれば良いか、自分なりの方法を考えることができたか。	(2) 水を溜めるのに必要なものを探しだし、うまく使うことができたか。	(3) 自分が思っていることを進んで発表したり、絵や文に表したりできたか。	(1) ダムは、水を溜めて流していることに気づいたか。	(2) 山砂と川砂の性質の違いに気づいたか。	(3) 砂は水を通すなどの砂と水の関係に気づいたか。	
1年 S. T	△→○	◎→◎→◎	△→○→△	○→◎	○→◎	△→○	○	◎	△→○→◎	めあてをもたせることにより意欲的にいきいきと活動できることがわかった。普段の授業ではみられない姿があった。
H. M	△→○	◎→◎→○	○→○→◎	○→◎	○→◎	◎→◎	○	◎	△→○→◎	より面白いものへと貪欲に向かう態度がみられた。友達のことも考え行動する姿もみられた。
A. K	◎→○	○→◎→○	○→○→◎	○→○	○→○	○→◎	○	◎	○→○→◎	2回目の砂遊びでいきいきとトンネルを作っていたのが印象的であった。自分の考えに自信をもっともたせたい。
S. K	△→○	○→◎→○	○→○→○	△→◎	○→○	△→○	○	◎	△→○→○	最初は控えめに活動していたが2回目の砂遊びでは自分の作りたいものを作ることができ非常に満足気であった。
S. H	◎→◎	○→○→○	○→◎→◎	○→◎	○→○	○→◎	○	◎	△→△→○	砂場作りの時一生懸命に草むしりをしていた。彼女なりの考えを表現しようとする場がなかった。
N. A	○→○	○→◎→◎	△→○→◎	○→◎	○→◎	◎→◎	○	◎	○→◎→◎	単元が進むにつれてしだいにいきいきとになっていった。生活経験から多くのことに気付いていたことに驚かされた。
M. N	△→○	◎→◎→◎	△→○→◎	○→○	○→◎	○→◎	○	◎	△→△→◎	活動する中で自分のやりたいことに気付きそれを実現させようと一生懸命がんばっていた。
2年 S. M	◎→◎	◎→◎→○	○→◎→◎	○→○	○→○	◎→◎	○	◎	○→○→◎	ケンカして気落ちしている子どもに声をかけ仲間に入れてあげるなど上級生としての気遣いがしばしば見られた。

*本単元は、同内容同程度の単元であることや、児童の実態などを考慮して、学年による評価基準の違いは特別設けない。(◎…十分達成、○…おおむね達成、△…達成不十分)

IV 研究のまとめと今後の課題

1 研究の成果

新しい教科である生活科を進めるに当たって、その趣旨や特質を強調していくことは大切なことである。本研究は「活動や体験の重視」及び「地域の特性を生かす」という二つの特質に視点を当て、研究協力者（校）の実践を通して探ったものである。

また、生活科の指導計画をはじめ関連資料について作成の手順と様式等を示すことにより、各学校において柔軟に活用され、特色ある単元構成や授業実践が進められた。

以下、主題と副題に即して、児童の変容を中心にまとめてみる。

(1) 研究主題にかかわって

- ① 各研究協力校ともに活動・体験マトリックスを基に「豊かな体験」を取り入れた指導計画を作成し、授業実践を進めた結果、児童は意欲をもって生き生きと活動し、「生活科の学習は楽しい」という感想が圧倒的に多かった。
- ② 一人一人がのびのびと身近な体験をすることにより、その体験を生活に生かして遊びを工夫したり、生活の知恵を役立たせようとする意欲や態度が見られるようになった。
- ③ 児童の興味・関心を大切にした活動や体験は新鮮な感動があり、自分なりのこだわりをもちいろいろなことに気付くことを通して、積極的に学習に取り組むようになった。また、活動を通して友達とのかかわりを広め、協力する態度や相手を思いやる気持ちが高まった。

(2) 副題にかかわって

- ① 各研究協力校ともに環境マトリックスを基に、地域の特性を生かした指導計画を作成し、授業実践を進めることにより、各地域、学校の特色ある実践事例を作成できた。
- ② 地域に根ざした身近な素材による学習は児童の生活圏を広げ、自ら進んで探究し、挑戦してみようとする自主的、自発的な態度が見られるようになった。
- ③ 地域の学習を通して、児童、教師はもちろん地域の人々も地域の自然や社会に目を向けるようになり、学校と家庭・地域社会とのつながりが強くなった。
- ④ 児童にとって身近な地域の社会や生活についての興味・関心が強く、進んで学ぼうとする意識が高まった。
- ⑤ 地域の学習を通して家庭や地域の人々と触れ合う機会が増し、地域や人々に対する愛着や感謝の気持ちをもつようになった。

2 今後の課題

- (1) 活動や体験を通して、どれだけ身近な自然や社会へ関心をもち、気付きをしたか、どんな生活習慣や生活技能が身に付いたか、児童の心がどれほど豊かになったかという三つの側面から

活動や体験を見直し、質的な充実を図るとともに子どもの主体的な活動を進める中で、どんな児童に育ってほしいか等、教師の願いや「期待する子どもの姿」を明確にした指導計画や学習活動を検討する。

- (2) 地域素材のもつ普遍的な社会認識や自然認識とは何かを明確にし、それを学習にどう生かすかを吟味するとともに地域の自然や社会、生活、人々と総合的なかわりをもった指導計画や授業を構築する。
- (3) 生活科の授業を通して、個性を伸ばすことや自立の基礎を養うという観点から、その学習形態や教師の援助・指導、評価の在り方等実践上の課題の解明に努める。

* 主な参考文献

- | | | |
|--------------------------|--------------|---------|
| ① 『小学校指導書・生活編』 | 文部省 | 1989 |
| ② 『指導計画の作成と学習指導』 | 文部省 | 1990 |
| ③ 『生活科はこんな教科である』 | 山形県教育委員会 | 1989 |
| ④ 『生活科はこんな授業になる』 | 山形県教育委員会 | 1990 |
| ⑤ 『自ら楽しく学ぶ子供の育成』 | 天童市立山口小学校 | 1989～90 |
| ⑥ 『研究報告』第270・279・281号 | 千葉県総合教育センター | 1989～90 |
| ⑦ 『研究報告書』第13号 | 埼玉県立北教育センター | 1990 |
| ⑧ 『研究紀要』No96 | 福岡県教育センター | 1990 |
| ⑨ 『研究報告書』第200号 | 沖縄県那覇市立教育研究所 | 1989 |
| ⑩ 『生活科研究報告書』 | 東京都立教育研究所 | 1990 |
| ⑪ 『研究紀要』第140集 | 東京都葛飾区立教育研究所 | 1990 |
| ⑫ 『初等教育資料』1989.6 | 初教出版 | 1989 |
| ⑬ 『季刊こころの教育』第4号 | エイデル研究所 | 1989 |
| ⑭ 高浦勝義『生活科の考え方・進め方』 | 黎明書房 | 1989 |
| ⑮ 清水毅四郎『全科・総合学習と生活科』 | 黎明書房 | 1989 |
| ⑯ 中野重人『生活科の授業づくりQ and A』 | 明治図書 | 1990 |
| ⑰ 中野重人『生活科の理論』 | 東洋館出版 | 1990 |
| ⑱ 『小学校教育』1991.5 | 教育開発研究所 | 1991 |
| ⑲ 『生活科ハンドブック』 | 図書文化 | 1991 |
| ⑳ 『さあ生活科をはじめましょう』 | 上越市立大手町小学校 | 1991 |
| ㉑ 『生活科システムファイル』'91 | 上越市立大手町小学校 | 1991 |
| ㉒ 『生活科システムファイル』'92 | 上越市立大手町小学校 | 1992 |

平成4年3月23日 印刷

平成4年3月25日 発行

発行所 山形県教育センター
天童市大字山元字犬倉津2515
TEL (0236) 54-2155

印刷所 豊田太印刷所
山形市立谷川二丁目938-8
TEL (0236) 86-2518

